農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

驗セルモノニシテF 19ト2714 POJ、F 24ト2725 POJ、F 28ト2727 POJノ3組合セニヨリ大莖種ト細莖種トヲ混植シ混植區ハ異品種ヲ1株毎ニ交互ニ植付試驗セリ

成　績

試驗別		枯損步合	ヘクタール當刈取莖數	ヘクタール當蔗莖收量	可製糖率	ヘクタール當可製糖量
		%	本	斤	%	斤
單植	F 19	1.50	43,489	118,100	14.068	13,585
混植	F 19	1.00	54,544	114,378	14.126	15,781
	1714 POJ	2.30	39,744	112,900	14.429	14,621
單植	2714 POJ	3.67	36,189	108,772	14.645	15,535
平均	單植	3.58	44,842	113,438	14.356	16,086
	混植	1.67	47,144	108,639	14.111	15,201
單植	F 24	0.83	58,378	109,661	13.688	15,051
混植	F 24	2.33	66,933	124,889	13.841	17,379
	2725 POJ	5.00	37,878	97,433	14.742	14,368
單植	2725 POJ	4.83	39,856	112,028	14.580	16,184
平均	單植	2.83	49,120	110,844	14.134	15,618
	混植	3.67	52,406	111,161	14.292	15,823
單植	F 28	0.83	47,433	110,228	14.028	15,371
混植	F 28	0.83	55,367	127,133	13.393	16,578
	2727 POJ	1.67	37,489	92,522	12.826	11,918
單植	2727 POJ	1.18	45,656	124,000	13.608	16,672
平均	單植	1.20	46,545	117,116	13.818	16,029
	混植	1.00	46,428	113,178	13.160	14,248

結論　大正十四年度ヨリ大正十五年度ニ至ル2箇年間ニ亙リ6品種ニ就テ試驗セル成績ニ依レハ町當可製糖量ニ於テF 19及2714 POJハ混植ヨリモ單植ノ成績優良ニシテF 24及2725 POJハ前者ハ混植後者ハ單植ノ成績優良ナルモ2品種ノ平均ハ單植ノ成績優良ナリ　F 28ト2727 POJハ前者ハ混植後者ハ單植ノ成績優良ナルモ之ヲ平均スレハ單植ノ成績優良ナリ　卽チ概シテ混植ヨリモ單植ノ成績佳良ナリ

三　蔗苗ニ關スル試驗研究

(1) 純系試驗 (自大正七年度至昭和二年度10箇年)

目的　蔗莖ヲ以テ甘蔗ノ無性繁殖ヲ行フ內ニ偶然變異又ハ病的變異ニヨ

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

リ種々形質ノ異ナリタル個體ヲ生スルモノナルヤ否ヤヲ知ラントスルト共ニ既ニ選擇シタル優良系統ノ生產力ヲ比較セントス

方法 36 POJ 及「ローズバンブー」ノ2品種ヲ用ヒ孰レモ代表的ノモノ各1株宛ヲ採リ各株及其株ノ各箇莖ノ形質ヲ精細ニ調査シ各箇莖ノ梢頭部ヨリ四節苗1本宛ヲ採リ植付翌年之ヨリ生育セル各株ニ就キ同樣ノ調査ヲ行ヒ各株ノ各箇莖ヨリ採苗シテ植付ケ斯ノ如ク數年間系統的ニ同樣ノ方法ヲ繰リ返シ其間ニ形質ノ異ナリタル箇體ヲ分離シ得ルヤ否ヤヲ調査スルト同時ニ斯カル變異ヲ生スヘキ原因ヲ研究セントスルニアリ

(甲) 36 POJ

大正七年度ヨリ大正十一年度迄5箇年間繁殖シ來リタル36 POJハ既ニ1町步以上ニ繁殖シ且肉眼的異型ト認メラルヘキモノヲ生シタルヲ以テ是等系統ヲ選出シテ植付ケ各系統ノ優劣ヲ比較スルト共ニ果シテ純系トシテ分離シ得ルヤ否ヤヲ確メンカ爲大正十二年度及十三年度ニ於テ試驗ヲ行ヒ優良系不良系及斑條系ヲ選出シ大正十四年度乃至昭和二年度ノ3箇年間普通圃場ニ於テ普通系ト比較シ1區ノ供試地積$\frac{2}{1,000}$乃至$\frac{2.5}{1,000}$「ヘクタール」供試組數2—5組ヲ以テ生產力試驗ヲ行ヒタルモノニシテ各系統ノ特徵ヲ示セハ次ノ如シ

優良系A型	莖色濃褐色ニシテ蠟質物多ク外觀粗硬下部ニ氣根多ク節關高ク節間短シ
優良系B型	莖色淡黃色ニシテ外觀圓滑節關低ク節間稍長シ
不良系A型	莖色濃紅色ニシテ細莖ナリ
不良系B型	莖色淡青色ニシテ細莖ナリ
斑條系	優良系A型ニ類似シ莖ニ淡キ斑條アリ
普通系	普通一般苗圃苗

成績

各系統ノ生產力ヲ比較スレハ次ノ如シ

累年平均成績表 (自大正十四年度 至昭和二年度 3箇年間)

試驗別	枯損步合	ヘクタール當刈取莖數	ヘクタール當蔗莖收量	可製糖率	ヘクタール當可製糖量
	%	本	斤	%	斤
優良系A型	1.80	92,253	118,373	13.836	16,265
普通系	3.20	93,147	119,373	13.266	15,786

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

試驗別	枯損步合	ヘクタール當刈取莖數	ヘクタール當蔗莖收量	可製糖率	ヘクタール當可製糖量
	%	本	斤	%	斤
優良系B型	2.37	96,207	123,713	13.674	16,789
普通系	2.03	92,033	121,047	13.402	16,109

試驗別	枯損步合	ヘクタール當刈取莖數	ヘクタール當蔗莖收量	可製糖率	ヘクタール當可製糖量
	%	本	斤	%	斤
不良系A型	1.50	84,850	96,750	12.990	12,567
普通系	1.56	100,800	122,150	14.268	17,430

試驗別	枯損步合	ヘクタール當刈取莖數	ヘクタール當蔗莖收量	可製糖率	ヘクタール當可製糖量
	%	本	斤	%	斤
不良系B型	1.42	78,583	103,367	12.250	12,553
普通系	0.67	94,250	120,300	13.758	16,502

試驗別	枯損步合	ヘクタール當刈取莖數	ヘクタール當蔗莖收量	可製糖率	ヘクタール當可製糖量
	%	本	斤	%	斤
斑條系	4.33	75,833	112,119	12.443	13,741
普通系	1.83	94.067	116,350	13.787	15,984

(乙) ローズバンブー

「ローズバンブー」ハ大正七年度ヨリ大正十三年度迄7箇年間繁殖シ大正十四年度ハ肉眼的觀察ト測定調査ニヨリ優良系57、不良系14系統ヲ選出シ植付ケ大正十五年度ニハ更ニ其內ヨリ優良系14、不良系8系統及普通系ヲ選出シ各系統每ニ之ヲ混合シテ植付ケ普通系ト比較シ生產力試驗ヲ行ヒ大正十五年度ハ之ヲ繼續シ現在更ニ繼續試驗シツツアリ

成績

累年平均成績表 (自大正十五年度至昭和二年度 2箇年間)

試驗別	枯損步合	ヘクタール當刈取莖數	ヘクタール當蔗莖收量	可製糖率	ヘクタール當可製糖量
	%	本	斤	%	斤
優良系	0.63	52,188	105,063	13.750	13,767
普通系	0.16	52,719	109,407	13.182	13,554

試驗別	枯損步合	ヘクタール當刈取莖數	ヘクタール當蔗莖收量	可製糖率	ヘクタール當可製糖量
	%	本	斤	%	斤
不良系	0.42	52,084	109,000	12.776	13.395
普通系	0	54,542	109,000	13.109	13.632

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

結論 大正十四年度ヨリ昭和二年度ニ至ル3箇年ニ亙リ 36 POJ ノ優良系A型、B型及不良A型、B型竝ニ斑條系ノ5系統ニ就テ普通系ト生産力ヲ比較シタル累年平均成績ニヨレハ優良系A型及B型ハ普通系ニ比シ可製糖率竝ニ可製糖量多クシテ成績稍々優良ナリ 而シテ不良型A及B型竝ニ斑條型ハ孰レモ普通型ニ比シ蔗莖收量、可製糖率竝ニ可製糖量少クシテ成績不良ナリ 故ニ甘蔗ノ如ク無性ノ繁殖ヲナスモノニアリテハ原種ト比較シ稍々形態ノ異ナリタル變異ヲ生スルコトヲ證明シ得ヘシ

(2) 芽條選擇試驗 (自大正十二年度 至昭和二年度 5箇年)

目的 本試驗ハ大正十二年度ニ著手シ芽條選擇ニヨリ品種ノ退化ヲ防止シ且之ヲ改善シ得ルヤ否ヤヲ試驗セントス

方法 最初大正十二年度ニ選擇シ植付アル400株ノ86 Mi ノ中ヨリ其10％即チ40株ノ優良株ヲ選擇ス 此時ニ於ケル大體ノ標準ハ (一)分蘖多キコト (二)分蘖莖ハ其生育整一ナルコト (三)蔗莖ノ發育佳良ナルコト (四)病蟲害ニ罹ラサルコト (五)倒伏セサルコト等トス 以上40株ニ就キ更ニ精細ニ肉眼的觀察ト測定調査ヲ行フ 其調査項目ハ分蘖數、莖丈、莖徑、節數、重量、糖率及病蟲害ノ有無等形態上ノ特徴ハ詳細ニ記載ス 而シテ大正十二年度ニハ選擇セル40株中ヨリ更ニ優良ナルモノ50％ヲ選ヒ1株ヲ1系統トシ各莖ヨリ梢頭部五節苗ヲ採リ之ヲ植付ケ草丈1尺内外ニ至レハ之ヲ1芽宛分離繁殖シ各系統毎ニ植付ク 斯シテ植付タルモノニ就キ前年同樣ノ觀察調査及選擇繁殖ヲ行ヒ二年目ノ終リニ於テ果シテ優良ナル系統ヲ分離シ得レハ第三年目ヨリ普通圃場ニ於テ生産力試驗ヲ行フモノトス 尚此時特ニ不良及普通系統ヲ採リ選擇ヲ行ハスシテ同樣ノ繁殖ヲ行ヒ植付ケ、生育狀況ヲ絶エス注意觀察ス 而シテ大正十二年度及大正十三年度ノ2箇年間右ノ方法ニヨリ試驗ヲ行ヒ優良系ト認メタルモノヲ選出シタルヲ以テ大正十四年度乃至昭和二年度ノ3箇年間普通圃場ニ於テ1區ノ供試地積$\frac{2}{1,000}$「ヘクタール」ノモノ4—5組ヲ設ケ尚不良型1—2組ヲ設ケ普通系ト比較シ生産力試驗ヲ行ヒタリ

成績

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

累年平均成績表 (自大正十四年度至昭和二年度 3箇年間)

試驗別	枯損步合	ヘクタール當刈取莖數	ヘクタール當蔗莖收量	可製糖率	ヘクタール當可製糖量
	%	本	斤	%	斤
優良系	1.46	85,608	132,800	13.521	17,901
普通系	1.21	90,042	133,258	13.875	18,380

結論 36 Mi ノ內ヨリ優良ト認ムル芽條ヲ選擇シタルモノニ就テ普通系トノ比較ヲ大正十四年度ヨリ昭和二年度ニ至ル 3 箇年ニ亙リ行ヒタル累年平均成績ニ依レハ優良ト認メタルモノハ却テ普通系ニ比シ刈取莖數、蔗莖收量、可製糖率並ニ可製糖量少クシテ成績不良ナリ　故ニ外觀ヨリ優良系ヲ選擇スルコトハ熟練ヲ要ス

(3) 芽條變異試驗 (自大正七年度至昭和二年度 10箇年)

目的 廣ク甘蔗ノ芽條變異ヲ蒐集シ數年間系統的ニ之カ無性ノ繁殖ヲ行ヒ每年其子孫ノ形質ヲ調査シ變異ノ狀態ヲ研究スルト共ニ芽條變異ヲ利用シ品種ヲ改善シ得ルヤ否ヤヲ試驗セントス

方法 本試驗ハ大正七年度ニ著手シ現在繼續試驗シツツアルモノニシテ大正七年度以降約 30 品種、60 變種ヲ蒐集シ變異ト普通トヲ 1 畦置ニ植付ケ各株每ニ其形質ヲ調査セリ　其主ナル品種ヲ列記スレハ次ノ如シ

大正七年度蒐集

品種名	種別	品種名	種別
36 POJ	斑條	ストライプトカレドニア	黑色
36 POJ	黑色	モーリシアスギンガム	白色
161 POJ	青色	ローズバンブー	斑條
161 POJ	斑條	1392/4	斑條
181 POJ	斑條	H 69×181 POJ	變異
181 POJ	黃色	181 POJ	葉片斑條
JV 93	斑條		

大正八年度蒐集

品種名	種別	品種名	種別
228 POJ	變異	カレドニアリボン	黑色
EK 4	變異	36 Mi	無斑條
N G	綠色	105 POJ	變異
H V	無斑條		

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

大正十一年度蒐集

品種名	種別	品種名	種別
36 Mi	無斑條	36 Mi	斑條

大正十二年度蒐集

品種名	種別	品種名	種別
36 POJ	變異（1）	大島在來種	斑條
36 POJ	變異（2）	2379 POJ	斑條
36 POJ	變異（3）	ローズバンブー	斑條（淡）
36 POJ	變異（4）	ヱローカレドニア	斑條（青）
36 POJ	變異（5）	$^{67}/_{8}$	斑條
36 POJ	變異（6）	$^{116}/_{8}$	斑條
228 POJ	變異	NG 24	斑條
D 1135	斑條	F 26	變異細莖
1507 POJ	斑條	F 19	變異細莖
讃谷山	斑條	36 POJ	變異細莖

大正十四年度蒐集

品種名	種別	品種名	種別
ローズバンブー	斑條	2714 POJ	變異
ローズバンブー	紫色	JV 93	優良
EKビクトリア	綠色	228 POJ	青色

大正十五年度蒐集

品種名	種別	品種名	種別
F 68	赤色	$^{441}/_{12B}$	斑條
F 68	青色	$^{441}/_{12B}$	青色
2714 POJ	變異	36 POJ	斑條
モーリシアスギンガム	黑色	228 POJ	斑條
2714 POJ	變異		

昭和二年度蒐集

品種名	種別	品種名	種別
D 1135	斑條（蘚）	36 Mi	斑條
ストライプトカレドニア	不良		

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

昭和三年度蒐集

品種名	種別	品種名	種別
D 1135	青色		

成績

成績著名ナル品種ニ就キ其平均價ヲ示セハ次ノ如シ

36 POJ (自大正七年度至大正十年度 4箇年間)

試驗別	分蘖	莖丈	莖徑	一株重量	糖率
	本	尺	厘	貫	%
普通	7.4	7.01	71	1.345	14.811
斑條	7.3	6.49	62	0.935	14.565
黑色	7.1	5.87	51	0.901	14.426

181 POJ (自大正九年度至大正十一年度 3箇年間)

試驗別	分蘖	莖丈	莖徑	一株重量	糖率
	本	尺	厘	貫	%
普通	8.9	7.92	71	1.677	13.626
斑條	6.4	6.93	64	0.884	11.579
黃色	5.5	5.82	60	0.602	11.915

JV 93 (自大正八年度至大正十三年度 6箇年間)

試驗別	分蘖	莖丈	莖徑	一株重量	糖率
	本	尺	厘	貫	%
普通	5.3	7.33	88	1.401	13.029
斑條	4.9	6.81	89	1.175	13.310

JV 93 (自大正十年度至大正十三年度 4箇年間)

試驗別	分蘖	莖丈	莖徑	一株重量	糖率
	本	尺	厘	貫	%
普通	5.9	7.41	87	1.639	12.924
斑條	5.1	6.79	88	1.309	13.019
黃色	5.1	6.63	90	1.262	13.192

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

ローズバンブー（自大正十三年度至大正十五年度 3箇年間）

試驗別	分蘖	莖丈	莖徑	一株重量	糖率
	本	尺	厘	貫	%
普通	3.9	8.64	93	1.345	13.211
斑條（淡）	4.0	8.65	90	1.331	13.563

ニユーギネアグリーン（自大正十年度至大正十四年度 5箇年間）

試驗別	分蘖	莖丈	莖徑	一株重量	糖率
	本	尺	厘	貫	%
普通	6.1	8.16	97	2.208	9.458
黄褐	6.3	8.04	91	2.124	11.816

36 Mi（自大正十一年度至大正十四年度 4箇年間）

試驗別	分蘖	莖丈	莖徑	一株重量	糖率
	本	尺	厘	貫	%
無斑條	5.7	8.94	82	1.642	13.388
斑條	7.6	8.67	72	1.704	14.055

ヘールバツチヤン（自大正十三年度至大正十四年度 2箇年間）

試驗別	分蘖	莖丈	莖徑	一株重量	糖率
	本	尺	厘	貫	%
普通	6.5	7.82	69	1.289	14.111
變異	6.5	8.15	71	1.264	13.198

F 1392/4（自大正十三年度至大正十五年度 3箇年間）

試驗別	分蘖	莖丈	莖徑	一株重量	糖率
	本	尺	厘	貫	%
普通	4.8	8.43	77	1.183	13.702
變異（1）	5.1	8.61	79	1.288	13.738
變異（2）	4.7	8.13	73	1.038	13.495
變異（3）	4.2	7.65	67	0.808	12.880

228 POJ（自大正九年度至大正十四年度 6箇年間）

試驗別	分蘖	莖丈	莖徑	一株重量	糖率
	本	尺	厘	貫	%
普通	7.3	7.77	69	1.358	14.410
變異	6.6	8.10	67	1.328	14.358

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

2725 POJ (自大正十四年度 至大正十五年度 2箇年間)

試驗別	分蘖	莖丈	莖徑	一株重量	糖率
	本	尺	匣	貫	%
普通	4.2	8.82	10.0	3.211	14.429
變異	4.3	8.92	10.3	3.570	14.335

2714 POJ (大正十五年度 1箇年間)

試驗別	分蘖	莖丈	莖徑	一株重量	糖率
	本	尺	匣	貫	%
普通	4.1	8.75	89	1.379	14.982
變異	4.0	8.75	87	1.273	14.750

結論 大正七年度ヨリ昭和二年度ニ至ル10箇年ニ亙リ30品種ニ就キ60ノ變異ヲ蒐集シ其重ナルモノニ就キ數年間生産力ヲ比較セル累年平均成績ニ依レハ原種ニ比シ分蘖、莖丈、莖徑、一株重量等ニ於テ多キモノ少キモノ等種々異ナリタル變異ノ生スルコト明ナリ

(4) 化學的淘汰試驗 (自明治四十三年度 至大正十一年度 13箇年)

目的 爪哇「コーブス」氏ハ甘蔗ノ化學的淘汰法ト稱シ重クシテ糖分多キ株ヨリ採レル苗ハ輕クシテ糖分少キモノニ比シ其成績優良ナルコトヲ證明セリ 本試驗ハ此方法カ果シテ合理的淘汰法ナルヤ否ヤヲ知ラントスルニアリ

方法 本試驗ハ明治四十三年度ニ著手シ大正十一年度迄13箇年間(大正元年度及大正四年度(36 POJ、143 POJ)ハ暴風雨ノタメ淘汰ヲ行ハス採苗繁殖セルノミ)ニ亙リ試驗セルモノニシテ次ノ18品種ヲ用ヒ5—9回ノ淘汰ヲ行ヘリ明治四十三年度ヨリ大正二年度迄4箇年間ハ集團選擇法ニヨリ重クシテ糖分多キモノ約3分ノ1ヲ選擇シ各株ヲ混同シテ植付タリシカ大正三年度ヨリ大正六年度迄4箇年間ハ各株糖分ノ向上狀態ヲモ考査センカタメ個體選擇法ヲ用ヒ可製糖率ノ多少ニヨリ順序ヲ定メ1株毎ニ植付ケ大正七年度ヨリ大正十一年度迄5箇年間ハ更ニ生物測定學ヲ應用シ毎年系統的ニ各個體ニ就テ形態的竝ニ化學的變異ヲ精細ニ調査シ其變化カ品種ノ改善ニ如何ナル價値アルヤヲ試驗セリ

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

成績

品種別 ＼ 項目 試驗別	枯損步合		町當刈取莖數		町當蔗莖收量		可製糖率		町當可製糖量	
	重多	普通	重多	普通	重多	普通	重多	普通	重多	普通
	%	%	本	本	斤	斤	%	%	斤	斤
ローズバンブー(1)	6.79	9.02	27,333	33,777	84,889	103,889	12.770	12.450	11,129	13,370
モーリシアスギンガム(1)	6.17	8.72	25,889	10,667	86,444	32,556	11.380	12.070	10,198	3,938
チエリボン(5)	18.19	18.38	38,658	35,402	78,114	71,825	13.584	13.487	12,694	11,401
ヱローカレドニア(5)	11.49	16.80	37,424	33,178	116,519	99,632	11.289	11.777	16,322	14,465
モーリシアスギンガム(5)	11.96	14.77	33,898	32,637	83,331	83,537	11.692	13.068	11,149	12,792
ローズバンブー(5)	6.02	5.83	36,658	35,524	110,410	98,788	13.931	11.992	16,899	12,893
チエリボン(5)	3.75	5.29	38,124	35,378	107,212	102,202	13.340	13.408	14,581	12,543
ヱローカレドニア(5)	5.98	6.62	32,072	30,625	134,873	122,509	10.609	10.608	14,103	12,876
139 POJ (9)	4.20	5.06	66,913	64,917	79,160	78,346	15.364	15.346	12,162	12,023
277 POJ (9)	3.94	3.67	72,289	74,602	80,098	80,589	14.521	14.592	11,631	11,760
讀谷山(9)	4.90	6.18	74,277	70,180	100,607	97,764	13.262	13.178	14,067	12,883
36 POJ (8)	2.45	4.09	69,717	70,373	106,459	96,063	14.289	14.282	15,212	13,720
143 POJ (8)	5.80	7.30	59,299	59,000	84,592	78,025	12.790	12.709	10,819	9,916
105 POJ (7)	2.44	2.00	49,400	46,644	107,461	104,665	13.104	13.190	14,082	13,805
181 POJ (7)	1.11	2.10	86,711	82,572	109,851	105,551	13.287	13.171	14,596	13,897
228 POJ (7)	2.29	2.61	77,195	71,939	102,231	91,039	14.219	14.500	14,536	13,201
234 POJ (7)	3.78	5.33	56,895	54,045	81,061	78,565	15.158	14.908	12,287	11,712
D 1135 (7)	3.28	2.78	58,206	56,149	104,993	99,184	11.423	11.762	11,993	11,666

備考 「ローズバンブー」「モーリシアスギンガム」ハ明治四十三年度1回淘汰「チエリボン」「ヱローカレドニア」ハ明治四十三年度乃至大正四年度5回淘汰「ローズバンブー」「モーリシアスギンガム」「チエリボン」「ヱローカレドニア」ハ明治四十四年度乃至大正五年度5回淘汰 139 POJ、277 POJ、讀谷山ハ大正三年度乃至大正十一年度9回淘汰 36 POJ、143 POJ ハ大正三年度乃至大正十一年度8回淘汰 105 POJ、181 POJ、228 POJ、234 POJ、D 1135 ハ大正五年度乃至大正十一年度7回淘汰、( )中ハ淘汰回數ヲ示ス

成績

各品種累年平均成績ヲ示セハ次ノ如シ

試驗別	枯損步合	町當刈取莖數	町當蔗莖收量	可製糖率	町當可製糖量
	%	本	斤	%	斤
重多	7.11	54,919	99,127	13.200	13,197
輕少	7.66	54,149	89,506	13.311	11,930

結論 前表ニ依レハ1株ノ重量重キモノハ輕キモノニ比シ可製糖率稍々低ケレトモ枯損步合、刈取莖數、蔗莖收量竝ニ可製糖量多クシテ成績佳良ナリ

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

(5) 化學的淘汰濟蔗苗比較試驗 (自大正十三年度 至大正十五年度 3箇年)

目的 化學的淘汰試驗ニ於テ7—9回ノ淘汰ヲ終リタル蔗苗ト最初ヨリ全ク淘汰ヲ行ハサル蔗苗トヲ比較セントスルニアリ

方法 本試驗ハ大正十三年度ニ著手シ大正十五年度ニ至ル迄3箇年間ニ亙リ重多普通ノ2區ヲ設ケ36 POJ、105 POJ、181 POJ、228 POJ、D 1135、讀谷山ノ6品種ニ就キ各區ノ供試地積 $\frac{1}{1,000}$「ヘクタール」ノモノ5組宛ヲ作リ淘汰ヲ行ヒタルモノト全ク淘汰ヲ行ハサルモトヨリ採苗シ前者ヲ重多トシ後者ヲ普通トシテ植付ケ試驗セリ

成績

36 POJ

試驗別	枯損步合	ヘクタール當刈取莖數	ヘクタール當蔗莖收量	可製糖率	ヘクタール當可製糖量
	%	本	斤	%	斤
重多	5.04	96,800	112,733	13.880	15,645
普通	5.67	95,867	119,067	13.601	16,311

105 POJ

試驗別	枯損步合	ヘクタール當刈取莖數	ヘクタール當蔗莖收量	可製糖率	ヘクタール當可製糖量
	%	本	斤	%	斤
重多	2.67	74,533	120,400	13.237	15,885
普通	6.37	71,800	114,733	13.411	15,516

181 POJ

試驗別	枯損步合	ヘクタール當刈取莖數	ヘクタール當蔗莖收量	可製糖率	ヘクタール當可製糖量
	%	本	斤	%	斤
重多	2.11	108,867	140,867	13.171	18,469
普通	2.89	103,267	132,200	13.016	17,006

228 POJ

試驗別	枯損步合	ヘクタール當刈取莖數	ヘクタール當蔗莖收量	可製糖率	ヘクタール當可製糖量
	%	本	斤	%	斤
重多	3.33	124,133	125,400	13.559	16,950
普通	1.33	126,200	126,400	13.695	17,188

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

D 1135

試驗別	枯損步合	ヘクタール當刈取莖數	ヘクタール當蔗莖收量	可製糖率	ヘクタール當可製糖量
	%	本	斤	%	斤
重多	7.15	89,267	140,333	12.134	17,364
普通	6.22	88,667	129,067	12.429	16,216

讀谷山

試驗別	枯損步合	ヘクタール當刈取莖數	ヘクタール當蔗莖收量	可製糖率	ヘクタール當可製糖量
	%	本	斤	%	斤
重多	4.07	113,600	138,400	12.801	17,746
普通	1.00	111,733	127,800	12.285	15,610

各種平均

試驗別	枯損步合	ヘクタール當刈取莖數	ヘクタール當蔗莖收量	可製糖率	ヘクタール當可製糖量
	%	本	斤	%	斤
重多	4.06	101,200	129,672	13.130	17,010
普通	3.91	99,589	124,878	13.073	16,308

結論 大正十三年度ヨリ大正十五年度ニ至ル3箇年ニ亙リ36 POJ外5品種ニ就キ化學的淘汰濟ノ重多ト普通トノ蔗苗生產力比較試驗ヲ行ヒタル各品種累年平均成績ニ依レハ重多ハ普通ニ比シ刈取莖數、蔗莖收量、可製糖率竝ニ可製糖量多クシテ成績佳良ナリ

(6) 大苗小苗比較試驗 (自明治三十八年度至大正八年度10箇年)

目的 蔗苗ノ大小ハ甘蔗ノ發芽、生育、收量、可製糖率竝ニ可製糖量等ニ如何ナル影響アルヤヲ知ラントス

方法 本試驗ハ明治三十八年度ニ著手シ大正八年度ニ至ル迄10箇年間(明治三十九年度、大正元年度、同二年度、同四年度、同五年度ハ中止) ニ亙リ「ローズバンブー」及36 POJ外13品種ヲ用ヒ1區ノ供試地積15步乃至2畝22步、供試組數1—18組ヲ以テ施行セルモノニシテ蔗苗ハ總テ同一圃場ニ於テ生產セル梢頭部ノ同一箇所ヨリ三節苗ヲ一本採リトシ肉眼的觀察ニヨリ大ナル蔗苗ト小ナル蔗苗トニ選別シ植付後適宜灌漑ヲ行ヒタリ

成績

試驗別	枯損步合	町當刈取莖數	町當蔗莖收量	可製糖率	町當可製糖量
	%	本	斤	%	斤
大苗	7.65	65,278	110,697	13.206	14,572
小苗	9.58	64,407	103,744	12.761	13.221

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

結論 明治三十八年度ヨリ大正八年度ニ至ル間ニ於テ10箇年間ニ亙リ試驗セル各品種累年平均成績ニ依レハ大苗ハ小苗ニ比シ枯損步合少クシテ刈取莖數、蔗莖收量、可製糖率竝ニ可製糖量ヲ增加シ成績優良ナルコト明ナリ故ニ蔗苗ハ形狀ノ大ナルモノヲ選フヲ可トス

(7) 蔗苗重量試驗 (自大正元年度 至大正十三年度 10箇年)

目的 蔗苗ノ輕重ハ甘蔗ノ發芽、生育、收量、可製糖率竝ニ可製糖量等ニ如何ナル影響アルヤヲ知ラントスルニアリ

方法 本試驗ハ大正元年度ニ著手シ大正十三年度ニ至ル迄10箇年間(大正二年度、同四年度、同五年度ハ中止)ニ亙リ重苗、中苗、輕苗ノ3區ヲ設ケ36 POJ及D 1135外13品種ノ三節或ハ四節苗ヲ用ヒ1區ノ供試地積3步乃至1畝、供試組數6—15組ヲ以テ施行シタルモノニシテ蔗苗ハ總テ同一圃場ニ於テ生產セル梢頭部苗ヲ一本採リトシ各年度共品種每ニ蔗苗ヲ1本宛秤量シテ重、中、輕ノ3種ニ選別シ植付タリ

成績

試驗別	枯損步合	町當刈取莖數	町當蔗莖收量	可製糖率	町當可製糖量
	%	本	斤	%	斤
重苗	6.25	76,575	115,639	13.037	15,190
中苗	7.28	75,603	113,811	12.720	14,581
輕苗	8.74	74,541	108,932	12.512	13,737

結論 大正元年度ヨリ大正十三年度ニ至ル迄10箇年間ニ亙リ試驗セル各品種累年平均成績ニ依レハ蔗苗ノ重量ヲ增スニ從ヒ枯損步合少クシテ刈取莖數、蔗莖收量、可製糖率竝ニ可製糖量ヲ增加シ成績優良ナルコト明ナリ　故ニ蔗苗ハ重量ノ重キモノヲ選擇スルヲ可トス

(8) 蔗苗比重選試驗 (自明治四十二年度 至大正十一年度 12箇年)

目的 爪哇ノ「ナツシ」氏ハ硫酸安母尼亞若クハ糖蜜ニ水ヲ加ヘ一定濃度ノ比重液ヲ作リ之ニ苗ヲ投シ恰モ本邦ニ於ケル籾種鹽水選ト同一ノ方法ニヨリ蔗苗ヲ選別シテ植付ケ重キモノハ輕キモノニ比シテ成績優良ナリト云フ本試驗ハ蔗苗比重ノ輕重ハ甘蔗ノ發芽、生育、收量竝ニ可製糖量等ニ如何ナル影響アルヤヲ試驗シ本法カ果シテ合理的淘汰法ナルヤ否ヤヲ査定セントス

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

方法 本試驗ハ明治四十二年度ニ著手シ大正十一年度ニ至ル迄12箇年間(大正二年度、同三年度ハ中止)ニ亙リ輕苗、中苗、重苗ノ3區ヲ設ケ「ローズバンブー」及D 1135外2品種ヲ用ヒ1區ノ供試地積15步乃至1畝、供試組數4—16組ヲ以テ施行セルモノニシテ蔗苗ハ總テ同一圃場ニ於テ生産セル梢頭部苗ノ三節或ハ四節苗ヲ用ヒ硫酸安母尼亞、糖蜜或ハ食鹽水ヲ用ヒテ作リタル比重液ニ投入シ品種別ニ適宜比重ヲ定メ輕、中、重ノ3種ニ選別シ植付後適宜灌漑ヲ行ヒ試驗セリ

成　績

試驗別	枯損步合	町當刈取莖數	町當蔗莖收量	可製糖率	町當可製糖量
	%	本	斤	%	斤
輕苗	5.65	53,232	98,272	12.910	12,620
中苗	5.89	53,931	98,150	13.124	12,730
重苗	8.16	53,127	97,195	12.960	12,498

結論 明治四十二年度ヨリ大正十一年度ニ至ル12箇年間ニ亙リ試驗セル各品種累年平均成績ニ依レハ枯損步合ハ蔗苗ノ比重ヲ增スニ從ヒ多ク蔗莖收量ハ比重輕キ程稍々多ク刈取莖數及可製糖量ハ比重中等ノモノ稍々多クシテ輕苗及中苗之ニ次ケリ　之ヲ要スルニ蔗苗比重選ハ比重ノ輕キモノハ重キモノニ比シテ稍々佳良ナルモ强ヒテ比重選ヲ行フ必要ナキカ如シ

(9) 母莖苗分蘖莖苗比較試驗 (自明治四十一年度至大正十一年度12箇年)

目的 植付タル蔗苗ヨリ最初ニ發生セル芽子ノ成長セルモノ母莖ニシテ母莖ノ基部節關ニアル小芽子ノ發育成長セルモノ分蘖莖ナリ　本試驗ハ母莖ヨリ採リタル蔗苗ト分蘖莖ヨリ採リタル蔗苗トハ其發芽、生育、收量竝ニ可製糖量等ニ如何ナル差異アルヤヲ試驗シ蔗苗トシテ何レカ優劣アルヤヲ知ラントス

方法 本試驗ハ明治四十一年度ニ著手シ大正十一年度ニ至ル迄12箇年間(大正元年度、同二年度、同三年度ハ中止)ニ亙リ母莖苗、分蘖莖苗ノ2區ヲ設ケ「ローズバンブー」36 POJ及240 POJノ3品種ヲ用ヒ1區ノ供試地積6步乃至2畝、供試組數3—20組ヲ以テ施行セルモノニシテ蔗苗ハ總テ同一圃場內ニ於テ普通ニ成熟セル甘蔗ヲ根元ヨリ掘リ起シ或ハ發芽當時ニ蔗莖ニ記標ヲ附シ母莖及

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

分蘖莖ヲ定メ其梢頭部ヨリ三節或ハ四節苗1本ヲ採リ植付ケ試驗セリ

成績

試驗別	枯損步合	町當刈取莖數	町當蔗莖收量	可製糖率	町當可製糖量
母莖苗	% 7.69	本 61,806	斤 123,686	% 12.913	斤 15,813
分蘖莖苗	7.79	61,030	123,006	12.882	15,633

結論 明治四十一年度ヨリ大正十一年度ニ至ル間ニ於テ12箇年間ニ亙リ試驗セル累年平均成績ニ依レハ各品種平均ニ於テ前表ニ示スカ如ク母莖苗ハ分蘖莖苗ニ比シ枯損少ク刈取莖數、蔗莖收量、可製糖率、可製糖量等稍々多クシテ成績優良ナリ

(10) 圓筒形苗圓錐形苗比較試驗 (自明治四十二年度 至大正十一年度 10箇年)

目的 生育ノ狀態ニヨリ甘蔗ノ梢頭部次第ニ細小トナリ稍々圓錐形ヲ呈スルモノト其太サ下部ト大差ナク圓筒形ヲ呈スルモノトアリ 斯ノ如ク形狀ニ差異アル梢頭部苗ハ其發芽、生育、收量竝ニ可製糖量等ニ如何ナル差異アルヤヲ試驗シ蔗苗トシテ優劣アルヤヲ知ラントス

方法 本試驗ハ明治四十二年度ニ著手シ大正十一年度ニ至ル迄10箇年間(大正二年度及同四年度乃至同六年度ハ中止)ニ亙リ圓筒形苗、圓錐形苗ノ2區ヲ設ケ「ローズバンブー」、D 1135及「ヱローカレドニア」外5品種ヲ用ヒ1區ノ供試地積6步乃至1畝、供試組數4—20組ヲ以テ施行セルモノニシテ成熟セル甘蔗ノ梢頭部ヨリ多數ノ蔗苗ヲ採リ其中ヨリ肉眼的觀察ニヨリ特ニ圓筒形狀ヲ呈スルモノト圓錐形狀ヲ呈スルモノトニ選別シ三節或ハ四節苗ヲ用ヒ試驗セリ

成績

試驗別	枯損步合	町當刈取莖數	町當蔗莖收量	可製糖率	町當可製糖量
圓筒形苗	% 5.27	本 63,365	斤 113,944	% 12.315	斤 13,822
圓錐形苗	4.56	62,323	111,833	12.370	13,679

結論 明治四十二年度ヨリ大正十一年度ニ至ル間ニ於テ10箇年間ニ亙リ試驗セル各品種累年平均成績ニ依レハ梢頭部苗ニアリテハ前表ニ示スカ如ク圓筒形苗ハ圓錐形苗ニ比シ枯損步合多ク可製糖率稍々低ケレトモ刈取莖

數、蔗莖收量及可製糖量多クシテ成績稍々優良ナリ　故ニ蔗苗ハ圓筒形ノモノヲ選擇スルヲ可トス

(11) 出穗苗不出穗苗比較試驗 (自明治三十八年度 至大正十一年度 10箇年)

目的　甘蔗ハ品種、氣候其他外界ノ狀況等ニヨリ出穗ノ多少ニ差異アレトモ成熟期ニ近ツクニ從ヒ抽穗シ之カタメ梢頭部ノ芽子膨大伸長シテ採苗ニ適セスト云フモノアリ　本試驗ハ開花セル梢頭部ト開花セサル梢頭部ヨリ採苗セルモノトハ其發芽、生育、收量、可製糖率並ニ可製糖量等ニ如何ナル差異アルヤヲ知ラントス

方法　本試驗ハ明治三十八年度ニ著手シ大正十一年度ニ至ル迄10箇年間(明治三十九年度、同四十年度、同四十三年度、大正二年度、同五年度、同六年度ハ中止)ニ亙リ出穗苗ト不出穗苗ノ2區ヲ設ケ「ローズバンブー」、920 POJ及36 POJ外6品種ノ三節或ハ四節苗ヲ用ヒ1區ノ供試地積15步乃至2畝、供試組數2—18組ヲ以テ施行セルモノニシテ出穗セル梢頭部及出穗セサル梢頭部ヨリ蔗苗ヲ1本宛採苗シ出穗苗ノ中芽子甚シク膨大伸長シ蔗苗トシテ適セサルコト明カナルモノハ之ヲ省キ植付後適宜灌漑ヲ行ヒ試驗セリ

成績

試驗別	枯損步合	町當刈取莖數	町當蔗莖收量	可製糖率	町當可製糖量
出穗苗	% 3.13	本 75,799	斤 114,553	% 12.889	斤 14,684
不出穗苗	2.90	74,731	116,101	12.812	14,811

結論　明治三十八年度ヨリ大正十一年度ニ至ル間ニ於テ10箇年間ニ亙リ試驗セル各品種累年平均成績ニ依レハ前表ニ示スカ如ク不出穗苗ハ出穗苗ニ比シ刈取莖數及可製糖率稍々低ケレトモ枯損步合少ク蔗莖收量及可製糖量稍々多シ

(12) 埴質土產蔗苗砂質土產蔗苗比較試驗 (自明治四十三年度 至大正十一年度 11箇年)

目的　埴質土ニ生育セル甘蔗ヨリ採苗セル蔗苗ト砂質土ニ生育セル甘蔗ヨリ採苗セル蔗苗トハ其發芽、生育、收量、可製糖率並ニ可製糖量等ニ如何ナル差異アルヤヲ試驗シ苗圃ノ土質ノ蔗苗ニ及ホス影響ヲ知ラントス

方法　本試驗ハ明治四十三年度ニ著手シ大正十一年度ニ至ル迄11箇年間

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

(大正元年度、同二年度ハ中止)ニ亙リ埴質土產及砂質土產蔗苗ノ2區ヲ設ケ「ローズバンブー」、D 1135及36 POJ外6品種ノ三節或ハ四節苗ヲ用ヒ1區ノ供試地積15步乃至2畝、供試組數3—18組ヲ以テ施行セルモノニシテ前年度ニ埴質土及砂質土ニ同一蔗苗ヲ植付成熟シタル蔗莖ノ梢頭部ヨリ採苗シテ植付ケ試驗セリ

成績

試驗別	枯損步合	町當刈取莖數	町當蔗莖收量	可製糖率	町當可製糖量
	%	斤	本	%	斤
粘土地苗	6.48	70,407	120,075	13.223	15,747
砂土地苗	7.35	70,445	116,513	13.215	15,400

結論 明治四十三年度ヨリ大正十一年度ニ至ル間ニ於テ11箇年ニ亙リ埴質土產竝ニ砂質土產蔗苗ニ就テ試驗セル各品種累年平均成績ニ依レハ前表ニ示スカ如ク埴質土產蔗苗ハ砂質土產蔗苗ニ比シ枯損步合及刈取莖數少ケレトモ蔗莖收量、可製糖率竝ニ可製糖量多クシテ成績佳良ナリ

(13) 新植苗株出苗比較試驗 (自明治四十二年度至明治四十四年度 3箇年)

目的 新植セル甘蔗ヨリ採リタル蔗苗ト株出セル甘蔗ヨリ採リタル蔗苗トノ優劣ヲ比較セントスルニアリ

方法 本試驗ハ明治四十二年度ニ著手シ明治四十四年度ニ至ル迄3箇年間ニ亙リ新植苗、株出苗ノ2區ヲ設ケ「エローカレドニア」「モーリシアスギンガム」「チユリボン」D 117ノ4品種ヲ用ヒ1區ノ供試地積15步乃至1畝、供試組數4—6組ヲ作リ試驗セリ

成績

試驗別	枯損步合	町當刈取莖數	町當蔗莖收量	可製糖率	町當可製糖量
	%	本	斤	%	斤
新植苗	9.59	49,061	101,171	13.773	13,968
株出苗	10.21	48,781	103,149	13.583	13,859

結論 明治四十二年度ヨリ明治四十四年度ニ至ル3箇年ニ亙リ新植苗及株出苗ニ就テ試驗セル累年平均成績ニ依レハ新植苗ハ株出苗ニ比シ蔗莖收量少ケレトモ刈取莖數、可製糖率、可製糖量稍々多シ 但其差異ハ試驗成績ヲ左右スル程大ナラス

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

(14) 選苗不選苗比較試驗 (自明治四十三年度 至大正十三年度 10箇年)

目的 蔗苗ヲ選擇シテ植付ルモノト選擇セスシテ植付ルモノトハ甘蔗ノ發芽、生育、收量、可製糖率竝ニ可製糖量等ニ如何ナル差異アルヤヲ知ラントス

方法 本試驗ハ明治四十三年度ニ著手シ大正十三年度ニ至ル迄10箇年間(大正二年度及同六年度ハ中止)ニ亙リ選苗、不選苗ノ2區ヲ設ケ「チエリボン」及D 1135外2品種ヲ用ヒ1區ノ供試地積3歩乃至1畝、供試組數6—30組ヲ以テ施行シタルモノニシテ選苗ハ大體次ノ如キ標準ニヨリ選擇セリ

(1) 立毛ノ儘黄條病其他一切ノ病蟲被害株及不良株ヲ除ク

(2) 刈倒シタル後1本毎ニ不良蔗莖及病蟲被害蔗莖ヲ除ク

(3) 基部ヲ削リ「セレー」病其他病害蔗莖ヲ除ク

(4) 以上ノ選擇蔗莖ヨリ三節或ハ四節苗ヲ採苗シ紅心、螟蟲、不良芽其他不良蔗莖ヲ除ク

以上各年度共同一圃場内ニ於テ生育狀態ノ畧平均セル採苗區域ヲ選ヒ選苗ハ以上ノ如ク選擇ヲ行ヒテ採苗シ不選苗ハ全ク選擇ヲ行ハスシテ採苗シ植付タリ

成績

試驗別	枯損步合	町當刈取莖數	町當蔗莖收量	可製糖率	町當可製糖量
選苗	% 26.79	本 64,463	斤 117,313	% 13.118	斤 15,400
不選苗	44.89	61.349	111,096	12.940	14,382

結論 明治四十三年度ヨリ大正十三年度ニ至ル間ニ於テ10箇年間ニ亙リ試驗セル各品種平均成績ニ依レハ選苗ハ不選苗ニ比シ枯損步合少ク刈取莖數、蔗莖收量、可製糖率、可製糖量多クシテ成績優良ナリ 卽チ肉眼的鑑定ニヨリ蔗苗ノ優良ト認ムルモノヲ選擇スルノ必要アルコト明ナリ

(15) 芽條選擇蔗苗ト普通蔗苗トノ比較試驗 (自大正十三年度 至大正十五年度 3箇年)

目的 健全ノ蔗苗ヲ得ンカタメ芽條選擇ニヨリ原苗圃ヲ設ケ年2回繁殖セル蔗莖ヨリ採苗セル蔗苗ト普通梢頭部苗トノ優劣ヲ比較セントスルニアリ

方法 本試驗ハ大正十三年度ニ著手シ大正十五年度ニ至ル迄3箇年間ニ

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

亙リ芽條選擇蔗苗ト普通蔗苗ノ2區ヲ設ケ重ナル品種12ニ就キ各年度共各區ノ供試地積$\frac{1}{1,000}$「ヘクタール」ノモノ10組宛ヲ設ケ植付ケ試驗セリ

成　績

F 4

試驗別	枯損步合	ヘクタール當刈取莖數	ヘクタール當蔗莖收量	可製糖率	ヘクタール當可製糖量
	%	本	斤	%	斤
芽條選擇苗	4.67	95,433	136,100	13.902	18,825
普通蔗苗	4.00	95,767	133,767	13.835	18,464

F 19

試驗別	枯損步合	ヘクタール當刈取莖數	ヘクタール當蔗莖收量	可製糖率	ヘクタール當可製糖量
	%	本	斤	%	斤
芽條選擇苗	1.67	80.100	159,767	14.897	23,685
普通蔗苗	2.50	80,600	157,533	14.974	23,532

F 24

試驗別	枯損步合	ヘクタール當刈取莖數	ヘクタール當蔗莖收量	可製糖率	ヘクタール當可製糖量
	%	本	斤	%	斤
芽條選擇苗	3.33	88,500	144,467	14.910	21,416
普通蔗苗	2.00	88,733	144,133	15.059	21,590

36 POJ

試驗別	枯損步合	ヘクタール當刈取莖數	ヘクタール當蔗莖收量	可製糖率	ヘクタール當可製糖量
	%	本	斤	%	斤
芽條選擇苗	3.00	99,733	133,900	15.124	20,134
普通蔗苗	2.00	101,333	132,167	15.024	19,773

1135 POJ

試驗別	枯損步合	ヘクタール當刈取莖數	ヘクタール當蔗莖收量	可製糖率	ヘクタール當可製糖量
	%	本	斤	%	斤
芽條選擇苗	1.67	119,367	145,933	14.736	21,542
普通蔗苗	1.33	118,167	143,700	14.718	21,151

2714 POJ

試驗別	枯損步合	ヘクタール當刈取莖數	ヘクタール當蔗莖收量	可製糖率	ヘクタール當可製糖量
	%	本	斤	%	斤
芽條選擇苗	8.00	52,900	145,800	15.500	22,410
普通蔗苗	5.50	54,300	143,377	15.264	21,850

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

累年平均成績表 （自大正十四年度至大正十五年度2箇年間）

36 Mi

試驗別	枯損步合	ヘクタール當刈取莖數	ヘクタール當蔗莖收量	可製糖率	ヘクタール當可製糖量
	%	本	斤	%	斤
芽條選擇苗	3.75	92,700	138,300	15.403	21,142
普通蔗苗	0.50	92,500	136,450	15.120	20,486

2725 POJ

試驗別	枯損步合	ヘクタール當刈取莖數	ヘクタール當蔗莖收量	可製糖率	ヘクタール當可製糖量
	%	本	斤	%	斤
芽條選擇苗	15.00	60,350	140,950	14.797	20,469
普通蔗苗	6.25	64,550	138,200	14.788	19,937

ローズバンブー

試驗別	枯損步合	ヘクタール當刈取莖數	ヘクタール當蔗莖收量	可製糖率	ヘクタール當可製糖量
	%	本	斤	%	斤
芽條選擇苗	2.75	53,350	112,800	14.358	15,943
普通蔗苗	3.50	52,600	115,350	14.139	16,084

累年平均成績表 （大正十五年度1箇年間）

2727 POJ

試驗別	枯損步合	ヘクタール當刈取莖數	ヘクタール當蔗莖收量	可製糖率	ヘクタール當可製糖量
	%	本	斤	%	斤
芽條選擇苗	3.00	64,200	96,900	14.205	13,765
普通蔗苗	2.50	65,900	99,800	13.997	13,969

SW 425

試驗別	枯損步合	ヘクタール當刈取莖數	ヘクタール當蔗莖收量	可製糖率	ヘクタール當可製糖量
	%	本	斤	%	斤
芽條選擇苗	4.50	90,200	96,700	15.102	14,604
普通蔗苗	2.00	85,800	99,200	15.376	15,253

F 28

試驗別	枯損步合	ヘクタール當刈取莖數	ヘクタール當蔗莖收量	可製糖率	ヘクタール當可製糖量
	%	本	斤	%	斤
芽條選擇苗	2.00	59,500	83,200	14.998	12,478
普通蔗苗	4.00	56,000	78,800	15.060	11,837

結論 大正十三年度ヨリ大正十五年度ニ至ル3箇年ニ亙リF4外11品種ニ就キ芽條選擇苗ト普通苗トノ比較試驗ヲ行ヒタル平均成績ニ依レハ12品種ノ內芽條選擇苗ノ普通苗ニ比シ蔗莖收量ノ多キモノ9種ニシテ少キモノ2品種、同シク可製糖率ノ多キモノ8品種ニシテ少キモノ3品種ナリ 結局芽條選擇ヲ行ヒタルモノハ普通苗ニ比シ成績稍々佳良ナリ

(16) 蔗苗節數試驗 (自明治四十二年度至大正十一年度 8箇年)

目的 蔗苗節數ノ多少ハ發芽、生育、收量、可製糖率竝ニ可製糖量等ニ如何ナル影響アルヤヲ知ラントスルニアリ

方法 本試驗ハ明治四十二年度ニ著手シ大正十一年度ニ至ル迄8箇年間(大正元年度乃至大正六年度ハ中止)ニ亙リ二乃至七節苗ノ6區ヲ設ケ D 1135 及 36 POJ外2品種ヲ用ヒ1區ノ供試地積15步乃至1畝、供試組數2—12組ヲ以テ施行セルモノニシテ孰レモ成熟セル甘蔗ノ梢頭部ヨリ各節苗共1本宛採苗シ植付タリ

成 績

試驗別	枯損步合	町當刈取莖數	町當蔗莖收量	可製糖率	町當可製糖量
	%	本	斤	%	斤
二節苗	10.28	69,263	115,700	12.226	13,698
三節苗	4.30	76,014	125,947	12.368	15,196
四節苗	2.47	77,872	130,826	12.771	16,407
五節苗	1.22	78,159	131,290	12.533	16,243
六節苗	0.80	79,422	134,117	12.592	16,690
七節苗	0.62	81,803	136,319	12.573	16,851

結論 明治四十二年度ヨリ大正十一年度ニ至ル間ニ於テ8箇年間ニ亙リ二乃至七節苗ニ就テ試驗セル各品種累年平均成績ニ依レハ前表ニ示スカ如ク蔗苗ノ節數ヲ增スニ從ヒ概シテ枯損步合ヲ減シ刈取莖數、蔗莖收量、可製糖率竝ニ可製糖量ヲ增シ成績佳良ナリ

蔗苗節數試驗 (植付株數ヲ異ニシ植付芽數ヲ同シクセルモノ) (自明治四十一年度至明治四十三年度 2箇年間)

試驗別	枯損步合	町當刈取莖數	町當蔗莖收量	可製糖率	町當可製糖量
	%	本	斤	%	斤
二節苗	29.91	55,375	120,902	12.395	15,056
三節苗	6.81	56,051	115,509	12.165	14,107
四節苗	2.88	53,151	114,168	11.980	13,639
五節苗	1.95	49,153	111,409	12.665	14,012
七節苗	3.56	50,624	121,350	13.240	16,076

結論 明治四十一年度ヨリ2箇年ニ亙リ二乃至七節苗ニ就テ植付株數ヲ異ニシ植付芽數ヲ同シクシテ試驗セル平均成績ニ依レハ前表ニ示スカ如ク二乃至五節迄ハ概シテ節數少クシテ植付株數多キモノ程枯損步合、刈取莖數、蔗莖收量ヲ減シ可製糖率及可製糖量ハ二乃至四節迄ハ節數少クシテ植付株數多キモノ程成績佳良ナリ

(17) 梢頭部採苗部分試驗 (自明治四十二年度至大正十一年度12箇年)

目的 成熟セル甘蔗ノ梢頭部ヨリ採苗スルニ當リ上部、中部、下部ノ中其何レノ部分カ蔗苗トシテ最モ適當ナルヤヲ知ラントスルニアリ

方法 本試驗ハ明治四十二年度ニ著手シ大正十一年度ニ至ル迄12箇年(大正元年度、同二年度ハ中止)ニ亙リ第一梢頭部、第二梢頭部、第三梢頭部ノ3區ヲ設ケ「ローズバンブー」36 POJ 及 228 POJ 外14品種ヲ用ヒ1區ノ供試地積15步乃至1畝、供試組數4—16組ヲ以テ施行セルモノニシテ各年度共成熟セル甘蔗ノ梢頭部ヲ用ヒ臺灣蔗作研究會ノ決定セル梢頭部定義ニヨルA及B部ヲ切棄テC部以下9節ヲ採リ上部3節ヲ第一梢頭部、次ノ3節ヲ第二梢頭部、下部3節ヲ第三梢頭部トシ孰レモ三節苗ヲ以テ試驗セリ

成績

試驗別	枯損步合	町當刈取莖數	町當蔗莖收量	可製糖率	町當可製糖量
	%	本	斤	%	斤
第一梢頭部	6.14	76,722	122,918	13.353	16,369
第二梢頭部	11.85	75,748	122,976	13.434	16,454
第三梢頭部	18.67	71,638	115,492	13.390	15,404

結論 明治四十二年度ヨリ大正十一年度ニ至ル間ニ於テ12箇年ニ亙リ試驗セル各品種累年平均成績ニ依レハ前表ニ示スカ如ク梢頭部ノ若キ程枯損步合少クシテ刈取莖數多ケレトモ蔗莖收量及可製糖量ハ第二梢頭部ノ成績最モ佳良ニシテ第一梢頭部及第三梢頭部順次之ニ相次ケリ

(18) 上中下部苗比較試驗 (自明治三十七年度至大正九年度10箇年)

目的 蔗苗ハ梢頭部ヨリ採苗スルヲ普通トスレトモ中部及下部モ亦繁殖ニ供セラル 本試驗ハ中下部苗カ上部苗ニ比シ如何ナル差異アルヤヲ知ラントスルニアリ

方法 本試驗ハ明治三十七年度ニ著手シ大正九年度ニ至ル迄10箇年間(明治三十九年度、大正二年度、同三年度、同五年度ハ中止)ニ亙リ「ローズバンブー」及234 POJ外6品種ヲ用ヒ1區ノ供試地積9步乃至2畝供試組數3—20組ヲ以テ施行セルモノニシテ三節苗或ハ四節苗ヲ用ヒ大正四年度以降ハ高地苗、平地苗ニ對スル上、中、下部苗比較試驗ヲ兼用シ試驗セリ

成績

試驗別	枯損步合	町當刈取莖數	町當蔗莖收量	可製糖率	町當可製糖量
	%	本	斤	%	斤
上部苗	5.03	77,061	111,075	14.104	15,634
中部苗	9.64	73,726	106,855	14.022	14,972
下部苗	16.42	65,079	96,766	14.098	13,700

結論 明治四十一年度ヨリ大正九年度ニ至ル間ニ於テ10箇年間ニ亙リ上部、中部及下部苗ニ就テ試驗セル各品種累年平均成績ニ依レハ前表ニ示スカ如ク上部苗、中部苗、下部苗ハ順次ニ枯損步合ヲ增シ刈取莖數、蔗莖收量及可製糖量ヲ減シ成績不良ナリ 卽チ蔗苗ハ蔗莖ノ下部ヨリ又ハ中部ヨリモ上部ヨリ採ルヲ可トス

(19) 上中下部苗比較試驗(高地苗平地苗ニ對スル) (自大正四年度至大正十四年度10箇年)

目的 蔗苗ハ梢頭部ヨリ採苗スルヲ普通トスレトモ中部及下部モ亦繁殖ニ供セラル 本試驗ハ中、下部苗カ上部苗ニ比シ如何ナル差異アルヤヲ知ラントシ併セテ高地產ノ上、中、下部苗ト平地產ノ上、中、下部苗トヲ比較シ其差異ヲ知ラントスルニアリ

方法 本試驗ハ大正四年度ニ著手シ大正十四年度ニ至ル迄10箇年間(大正五年度ハ中止)ニ亙リ平地苗ハ糖業科產蔗苗、高地苗ハ大南庄蔗苗養成所產蔗苗及后里庄蔗苗養成所產蔗苗ヲ用ヒ各上部苗、中部苗、下部苗ノ3區ヲ設ケ234 POJ及36 POJ外3品種ヲ用ヒ1區ノ供試地積3—15步、供試組數2—12組ヲ以テ施行セルモノニシテ全莖ヲ根元ヨリ刈倒シ上、中、下ノ各部ヨリ三節或ハ四節苗ヲ1本宛採苗シ植付タリ

成績

試驗別	枯損步合	町當刈取莖數	町當蔗莖收量	可製糖率	町當可製糖量
	%	本	斤	%	斤
高地上部苗	2.06	89,004	116,807	14.767	17,295
高地中部苗	3.59	89,398	115,459	14.693	17,078
高地下部苗	6.92	82,506	110,170	14.738	16,221
平地上部苗	3.57	88,730	117,685	14.702	17,351
平地中部苗	13.08	85,554	111,463	14.619	16,308
平地下部苗	26.26	75,784	104,042	14.756	15,275

結論　大正四年度ヨリ大正十四年度ニ至ル間ニ於テ10箇年間ニ亙リ高地產及平地產蔗苗ニ就テ上、中、下部苗ノ比較試驗ヲ行ヒタル各品種累年平均成績ニ依レハ前表ニ示スカ如ク高地產モ平地產モ上部ヨリ中部、下部ニ進ムニ從ヒ枯損步合多ク刈取莖數、蔗莖收量竝ニ可製糖量ヲ減シ成績不良ナリ　而シテ平地產蔗苗ハ高地產ニ比シ上部、中部、下部苗トモ枯損步合多ク刈取莖數及可製糖率低ケレトモ上部苗ノミハ平地苗ハ高地苗ニ比シ蔗莖收量竝ニ可製糖量多シ　卽チ概シテ高地產蔗苗ノ成績佳良ナレトモ上部苗ハ平地產反テ高地產ニ比シ優レリ

(20)　高地苗平地苗比較試驗（自明治四十二年度至大正十五年度 15箇年）

目的　高地產ノ蔗苗ト平地產ノ蔗苗トノ優劣ヲ比較セントスルニアリ

方法　本試驗ハ明治四十二年度ニ著手シ大正十五年度ニ至ル迄15箇年間(大正元年度乃至同三年度ハ中止)ニ亙リ平地苗ハ糖業科產及六塊厝苗圃產ヲ用ヒ高地苗ハ大南庄蔗苗養成所產及后里庄蔗苗養成所產ヲ用ヒ36 POJ外8品種ノ梢頭部三節或ハ四節苗ヲ用ヒ1區ノ供試地積3步乃至2畝12步、供試組數3—18組ヲ以テ施行セルモノニシテ各地產苗ノ試驗年數ヲ示セハ次ノ如シ

養地＼年度	明治四十二年度	明治四十三年度			明治四十四年度	大正四年度	大正五年度			大正六年度			大正七年度	大正八年度	大正九年度	大正十年度	大正十一年度	大正十二年度	大正十三年度	大正十四年度	大正十五年度
		其一	其二	其三			其一	其二	其三	其一	其二	其三									
糖業科產	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
六塊厝產	—	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
大南庄產	1	1	1	1	1	1	1	—	—	1	1	—	—	1	1	1	1	1	1	1	1
后里庄產	—	—	—	—	—	—	—	1	—	—	—	—	—	1	1	1	1	1	1	1	1

糖業科產大南庄產トノ比較試驗成績（自明治四十二年度至大正十五年度 15箇年間）

試驗別	枯損步合	町當刈取莖數	町當蔗莖收量	可製糖率	町當可製糖量
	%	本	斤	%	斤
糖業科產	4.86	77,628	117,108	13.940	16,677
大南庄產	4.26	81,580	126,165	14.131	18,175

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

糖業科產ト后里庄產トノ比較試驗成績 （自大正五年度至大正十五年度9箇年間）

試驗別	枯損步合	町當刈取莖數	町當蔗莖收量	可製糖率	町當可製糖量
	%	本	斤	%	斤
糖業科產	5.26	92,889	126,395	13.989	18,331
后里庄產	2.99	101,141	137,947	14.180	20,133

糖業科產ト六塊厝產トノ比較試驗成績 （自大正五年度至大正十四年度10箇年間）

試驗別	枯損步合	町當刈取莖數	町當蔗莖收量	可製糖率	町當可製糖量
	%	本	斤	%	斤
糖業科產	6.75	91,584	117,400	13.877	16,278
六塊厝產	5.62	94,137	121,550	13.803	16,302

各地產苗比較試驗成績 （自大正八年度至大正十四年度7箇年間）

試驗別	枯損步合	町當刈取莖數	町當蔗莖收量	可製糖率	町當可製糖量
	%	本	斤	%	斤
糖業科產	1.58	94,880	134,016	13.918	18,628
六塊厝產	1.51	98,204	137,992	13.858	19,131
大南庄產	0.81	102,108	144,880	14.082	20,346
后里庄產	1.09	197,482	144,670	14.065	20,374

各地產蔗苗比較試驗成績 （自大正八年度至大正十五年度8箇年間）

試驗別	枯損步合	町當刈取莖數	町當蔗莖收量	可製糖率	町當可製糖量
	%	本	斤	%	斤
糖業科產	1.51	94,294	128,395	13.961	18,679
大南庄產	1.42	101,006	137,662	14.078	20,099
后里庄產	1.58	96,883	137,314	14.080	20,109

結論 大正八年度ヨリ大正十五年度ニ至ル間ニ於テ15箇年ニ亙リ糖業科、六塊厝、大南庄及后里庄產ノ蔗苗ニ就テ試驗セル累年平均成績ニヨレハ蔗莖收量、可製糖率竝ニ可製糖量ニ於テ糖業科產ヨリモ大南庄、后里庄產蔗苗ノ成績佳良ナリ　六塊厝產ハ糖業科產ニ比シ可製糖率稍々低ケレトモ蔗莖收量竝ニ可製糖量ハ稍々多シ　之ヲ要スルニ可製糖量ニアリテハ后里庄、大南庄產多クシテ六塊厝產之ニ次キ糖業科產最モ劣レリ

(21) 高地苗後作用ニ關スル試驗 （自大正八年度至昭和二年度9箇年）

目的 高地產蔗苗ノ優良ナル性質ヲ持續シ得ル期間ヲ考查セントスルニ

アリ

方法　本試驗ハ大正八年度ニ著手シ現在繼續試驗シツツアルモノニシテ平地苗、高地一年目苗、高地二年目苗、高地三年目苗ノ4區ヲ設ケ平地苗ハ糖業科產、高地一年目苗ハ大南庄蔗苗養成所產ニシテ高地二年目苗ハ前年度ニ、高地三年目苗ハ前々年度ニ孰レモ大南庄蔗苗養成所ヨリ平地ニ移シタルモノニシテ梢頭部三節苗或ハ四節苗ヲ採リ36 POJヲ用ヒ1區ノ供試地積3—15步、供試組數8—15組ヲ以テ施行セリ

試驗別	枯損步合	町當刈取莖數	町當蔗莖收量	可製糖率	町當可製糖量
	%	本	斤	%	斤
平地苗	1.82	95,335	134,561	13.766	19,082
高地三年目	1.20	96,904	135,438	13.765	19,280
高地二年目	1.96	95,116	133,869	13.821	19,043
高地一年目	1.21	97,372	140,084	14.081	20,317

結論　大正八年度ヨリ昭和二年度ニ至ル9箇年ニ亙リ平均苗ト高地一年目、二年目、三年目苗ノ比較試驗ヲ行ヒタル成績ニヨレハ高地一年目苗ハ刈取莖數、蔗莖收量、可製糖率竝ニ可製糖量最モ多クシテ成績佳良ナリ　而シテ可製糖率ハ二年目、三年目、平地苗ニ近ツクニ從ヒ次第ニ減少シ蔗莖收量及可製糖量ニアリテハ二年目及三年目苗ハ殆ト平地苗ト大差ナシ

(22)　糖業科大南庄及農家產蔗苗比較試驗（自大正十三年度至昭和二年度4箇年）

目的　高地產蔗苗ト平地產蔗苗トノ優劣ヲ比較シ併セテ新化附近農家產(不選苗)蔗苗ヲ加ヘ其優劣ヲ比較セントス

方法　本試驗ハ大正十三年度ニ著手シ昭和二年度ニ至ル迄4箇年間ニ亙リ糖業科產、大南庄產、農家產ノ3區ヲ設ケ36 POJノ梢頭部三節苗ヲ用ヒ1區ノ供試地積$\frac{1}{1,000}$「ヘクタール」ノモノ10組ヲ以テ施行セルモノニシテ平地苗ハ糖業科產(選苗)新化附近農家產(不選苗)高地苗ハ大南庄蔗苗養成所產蔗苗ヲ以テ試驗セリ

試驗別	枯損步合	ヘクタール當刈取莖數	ヘクタール當蔗莖收量	可製糖率	ヘクタール當可製糖量
	%	本	斤	%	斤
糖業科產	2.10	95,500	138,975	13.860	19,309
大南庄產	4.88	98,375	142,875	14.200	20,287
農家產	8.38	94,200	127,250	13.852	17,652

結論　大正十三年度ヨリ昭和二年度ニ至ル4箇年ニ亙リ糖業科產、大南庄產、農家產ノ3區ヲ設ケ試驗セル累年平均成績ニ依レハ大南庄產ハ糖業科產ニ比シ糖業科產ハ農家產ニ比シ孰レモ枯損步合少クシテ刈取莖數、蔗莖收量、可製糖率竝ニ可製糖量多ク成績佳良ナリ

(23)　蔗苗交換試驗（自大正二年度至大正九年度 7箇年）

目的　島內ノ重ナル製糖所ヨリ蔗苗ヲ取寄セ地方ニヨリ蔗苗ニ優劣アルヤ否ヤヲ知ラントスルニアリ

方法　本試驗ハ大正二年度ニ著手シ大正九年度迄7箇年間（大正五年度ハ中止）ニ亙リ試驗セルモノニシテ各年度共全島主ナル製糖所ヨリ切出時期ヲ同シクセル「ローズバンブー」梢頭部苗ヲ取寄セ夫ニ糖業科產「ローズバンブー」ヲ加ヘ1區ノ供試地積3步乃至1畝、供試組數1—6組ヲ以テ施行セルモノニシテ尙大正七年度乃至大正九年度ノ3箇年ハ前年度取寄セタル蔗苗ヨリ更ニ採苗シテ植付2年目ニ於ケル成績ヲモ調査セリ

一年目苗

試驗別	枯損步合	町當刈取莖數	町當蔗莖收量	可製糖率	町當可製糖量
	%	本	斤	%	斤
臺北	10.86	43,178	89,911	12.468	12,323
新竹	8.60	45,837	95,741	13.602	12,602
月眉	9.48	46,402	89,378	13.029	11,546
臺中	7.10	45,120	93,052	12.890	12,047
彰化	12.52	43,417	86,533	13.236	11,317
林本源	6.11	45,802	92,720	13.653	12,458
埔里社	14.04	40,843	90,067	13.506	12,082
南投	10.28	41,478	90,554	13.186	11,640
大日本	13.89	43,748	93,044	12.154	12,352
北港	7.84	43,333	88,507	13.144	11,539
蒜頭	8.77	44,878	92,902	12.724	11,763
南靖庄	6.60	45,828	93,393	13.586	11,627
新營庄	13.55	42,537	85,591	13.477	11,503
麻豆	10.89	46,474	91,929	13.163	11,907
噍吧哖	7.58	44,198	93,522	13.695	12,436
橋仔頭	4.82	43,894	87,037	13.778	12,023
旗尾	13.12	43,117	78,829	13.589	10,595
阿緱	10.86	43,602	79,183	13.249	10,459
糖業科	8.97	44,737	90,965	13.194	11,843

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

二年目苗（自大正七年度至大正九年度3箇年間）

試驗別	枯損步合	町當刈取莖數	町當蔗莖收量	可製糖率	町當可製糖量
	%	本	斤	%	斤
臺北	5.03	46,671	85,889	13.202	11,315
新竹	5.43	47,083	89,917	12.823	11,462
月眉	6.43	49,000	87,861	12.691	11,211
臺中	6.62	48,917	88,833	12.042	10,667
彰化	5.00	47,111	88,222	12.901	11,229
林本源	4.64	46,000	88,999	12.666	11,496
埔里社	5.73	48,639	88,445	12.868	11,202
南投	7.01	50,556	85,722	13.024	11,128
大日本	5.91	48,306	93,333	11.874	10,927
北港	5.00	49,055	90,028	11.947	10,762
蒜頭	4.06	47,583	91,555	12.277	11,430
南靖庄	4.65	47,311	92,476	13.095	12,103
新營庄	9.57	47,222	88,778	12.777	11,534
麻豆	6.84	47,917	91,667	12.647	11,590
噍吧哖	3.80	46,528	85,305	12.779	10,859
橋仔頭	5.96	46,611	80,083	13.232	12,009
旗尾	5.82	47,028	85,916	12.203	10,507
阿緱	5.59	47,472	91,389	12.426	11,369
糖業科	6.33	49,472	91,944	12.728	11,760

結論　大正二年度ヨリ大正九年度ニ至ル間ニ於テ7箇年ニ亙リ全島19箇所產ノ蔗苗ニ就テ新化ニ於テ試驗セル累年平均成績ニヨレハ第一年目苗ハ臺北州及臺中州8箇所ノ平均ハ臺南州及高雄州11箇所ノ平均ニ比シ蔗莖收量及可製糖量多クシテ成績佳良ナリ　卽チ中北部產ノ蔗苗ハ南部產ニ比シ成績佳良ナリ　然ルニ第二年目苗ニ就テ大正七年ヨリ大正九年ニ至ル3箇年ニ亙リ試驗セル累年平均成績ニ依レハ中北部產ノモノト南部產ノモノト大差ナシ

(24) 大南庄產「ローズバンブー」ト糖業科產36 POJトノ比較試驗

（大正十二年度1箇年）

目的　大南庄蔗苗養成所產「ローズバンブー」ト糖業科產36 POJトノ優劣ヲ比較セントスルニアリ

方法　本試驗ハ大正十二年度1箇年大南庄產「ローズバンブー」及糖業科產36 POJノ2區ヲ設ケ各區ノ地積6步ノモノ5組ヲ設ケ梢頭部三節苗ヲ以テ試驗セリ

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

成　績

試　驗　別	枯損步合	町當刈取莖數	町當蔗莖收量	可製糖率	町當可製糖量
	%	本	斤	%	斤
大南庄ローズバンブー	2.78	61,600	137,300	14.571	20,006
當科產 36 POJ	0	93,000	131,900	14.694	19,381

結論　大正十二年度ニ大南庄產「ローズバンブー」及糖業科產 36 POJ トノ比較試驗ヲ行ヒタルニ大南庄產「ローズバンブー」ハ糖業科產 36 POJ ニ比シ刈取莖數、可製糖率低ケレトモ蔗莖收量及可製糖量多クシテ成績佳良ナリ

(25)　苗栗產及糖業科產蔗苗比較試驗　(自大正十二年度 至大正十四年度 3 箇年)

目的　苗栗地方產ノ「ローズバンブー」ト糖業科產「ローズバンブー」及 36 POJ トノ優劣ヲ比較セントスルニアリ

方法　本試驗ハ大正十二年度ニ著手シ大正十四年度ニ至ル迄 3 箇年間ニ亙リ苗栗產「ローズバンブー」糖業科產「ローズバンブー」及糖業科產 36 POJ ノ 3 區ヲ設ケ各區ノ供試地積 $\frac{1}{1,000}$「ヘクタール」ノモノ 10 組宛ヲ設ケ梢頭部三節苗ヲ以テ試驗セリ

成　績

試　驗　別	枯損步合	ヘクタール當刈取莖數	ヘクタール當蔗莖收量	可製糖率	ヘクタール當可製糖量
	%	本	斤	%	斤
苗栗產ローズバンブー	0.83	57,931	125,183	13.876	17,372
糖業科產ローズバンブー	1.67	58,517	123,328	14.247	17,693
糖業科產 36 POJ	2.00	103,213	150,410	14.186	21,363

結論　大正十二年年度ヨリ大正十四年度ニ至ル 3 箇年ニ亙リ苗栗產及糖業科產「ローズバンブー」ト糖業科產 36 POJ ノ比較試驗ヲ行ヒタル累年平均成績ニヨレハ蔗莖收量最モ多キハ糖業科產 36 POJ ニシテ苗栗產「ローズバンブー」糖業科產「ローズバンブー」之ニ次キ可製糖率最モ多キハ糖業科產「ローズバンブー」ニシテ糖業科產 36 POJ、苗栗產「ローズバンブー」之ニ次キ可製糖量最モ多キハ糖業科產 36 POJ ニシテ糖業科產「ローズバンブー」、苗栗產「ローズバンブー」順次之ニ次ケリ

(26)　新竹產蔗苗ト糖業料蔗苗トノ比較試驗　(自大正十二年度 至大正十五年度 4 箇年)

目的　帝國製糖新竹工場區域大湖口方面酸性土壤生產ノ矮小ナル蔗莖ヨ

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE

リ採リタル蔗苗ト糖業科産普通蔗苗トノ比較ヲ行ハントスルニアリ

方法 本試驗ハ大正十二年度ニ著手シ大正十五年度ニ至ル迄4箇年間ニ亙リ新竹產一年目苗、新竹產二年目苗及糖業科產ノ3區ヲ設ケ1區ノ供試地積$\frac{1}{1,000}$「ヘクタール」ノモノ5—10組ヲ設ケ新竹工場區域酸性土壤產234 POJノ梢頭部苗ヲ取寄セ糖業科產苗ト比較シ尚2年目ニ至レハ更ニ之ヨリ採苗シテ植付ケ糖業科ニ移シテヨリ2年目ニ於ケル成績ヲモ知ラントス

成績

試驗別	枯損步合	ヘクタール當刈取莖數	ヘクタール當蔗莖收量	可製糖率	ヘクタール當可製糖量
	%	本	斤	%	斤
新竹產一年目	24.67	68,847	86,100	14.356	12,442
新竹產二年目	2.50	85,067	106,100	15.216	16,071
糖業科產	4.50	88,918	118,855	15.104	17,864

結論 大正十二年度ヨリ大正十五年度ニ至ル4箇年ニ亙リ新竹州大湖口方面ノ酸性土壤ニ生產セル矮小ナル蔗莖ヨリ採苗セル一年目苗ト其二年目苗及糖業科產蔗苗ニ就テ試驗セル累年平均成績ニ依レハ刈取莖數、蔗莖收量竝ニ可製糖量ニ於テ孰レモ糖業科產最モ多クシテ新竹產二年目苗之ニ次キ其初年目苗ハ最モ少シ　而シテ新竹產矮小ノ蔗苗モ初年目ニハ成績著シク不良ナルモ2年目ニ至レハ稍佳良トナリ糖業科產ノ蔗苗ニ近キ成績ヲ示セリ

(27) 蔗苗豫措法試驗 (自明治四十一年度至大正元年度 5箇年)

目的 蔗苗ノ發芽ヲ整ヘ且之ヲ迅速ナラシメ或ハ蔗苗切出後種々ノ事情ニヨリ直ニ植付クルコト能ハサル場合等ニ種々ノ方法ヲ以テ植付前蔗苗ノ豫措法ヲ採リ發芽發根ヲ促シテ植付クルモノアリ　本試驗ハ其利害ヲ考究セントスルニアリ

方法 本試驗ハ明治四十一年度ニ著手シ大正元年度ニ至ル迄5箇年間ニ亙リ浸水、乾燥、浸乾、堆積、床伏、浸積ノ6區ヲ設ケ143 POJ、「ローズバンブー」「エローカレドニア」ノ3品種ヲ用ヒ各區ノ供試地積1畝步ノモノ6組宛ヲ作リ浸水區ハ1晝夜浸水シタルモノ　乾燥區ハ3日間日光ニ曝露シタルモノ　浸乾區ハ1晝夜浸水シ後2日間日光ニ曝露シタルモノ　堆積區ハ蔗苗ヲ堆積

シ藁稈ヲ以テ之ヲ覆ヒ毎日一、二回宛灌水シ發芽及發根ヲ促シタルモノ　床伏區ハ輕鬆ナル砂質壤土ニ蔗苗ヲ埋沒シ藁ヲ以テ薄ク之ヲ覆ヒ時々灌水シ發芽及發根ヲ促シタルモノ　浸積區ハ四、五日間浸水セル蔗苗ヲ地下1尺位ノ深サニ掘リタル穴ニ縱列シ其上ニ藁ヲ覆ヒ土ヲ掛ケ時々水ヲ灌キ數日間堆積シ發芽及發根ヲ促シタルモノニシテ以上孰レノ方法モ同一ノ時期ニ蔗苗ヲ切出シ植付ノ時期ハ芽子伸長ノ程度ニヨリ之ヲ異ニセリ　卽チ蔗苗切出シノ當日ヨリ起算シ浸水區ハ2日目、乾燥區及浸乾區ハ4日目ニ植付ケ堆積、床伏、浸積ノ各區ハ平均2週間內外ナリ

成　績

試驗別	枯損步合	町當刈取莖數	町當蔗莖收量	可製糖率	町當可製糖量
	%	本	斤	%	斤
浸水	10.26	47,434	83,322	13.683	11,520
乾燥	17.74	47,850	84,424	13.697	11,446
浸乾	13.13	47,434	77,105	13.824	10,722
堆積	7.61	48,745	83,437	13.769	11,544
床伏	11.52	48,926	85,332	13.541	11,567
浸積	10.11	46,526	82,326	13.862	11,548

結論　明治四十一年度ヨリ大正元年度ニ至ル5箇年ニ亙リ浸水、乾燥、浸水後乾燥、堆積、床伏及浸積ノ6區ヲ設ケ試驗セル累年平均成績ニ依レハ可製糖量ニアリテハ蔗苗ヲ一度浸漬シタル後乾燥セルモノ最モ少ク乾燥區之ニ次キ其他ノ各區ハ大差ナシ

28　蔗苗浸水試驗（自明治四十二年度 至大正八年度 10箇年）

目的　植付前蔗苗ヲ浸水スルモノトセサルモノトノ利害ヲ考査スルト共ニ浸水日數ノ多少ハ蔗苗ノ發芽、甘蔗ノ生育、收量、可製糖率竝ニ可製糖量等ニ如何ナル影響アルヤヲ知ラントスルモノニシテ植付後適宜灌漑ヲ行ヒテ施行セリ

方法　本試驗ハ明治四十二年度ニ著手シ大正八年度ニ至ル迄10箇年間(大正二年度ハ中止)ニ亙リ　大正七年度及同八年度ハ無浸水、一日浸水、二日浸水、六日浸水、十日浸水、十四日浸水ノ6區ヲ他ノ各年度ハ以上ノ外ニ半日浸水、四日浸水、八日浸水、十二日浸水ノ4區ヲ加ヘ10區ヲ設ケ「ローズバンブー」及36 POJ

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

外4品種ヲ用ヒ1區ノ供試地積15步乃至1畝供試組數2—16組ヲ以テ施行セルモノニシテ蔗苗ハ總テ同一圃場ニ於テ生產セル梢頭部苗ニシテ三節或ハ四節苗ヲ用ヒ　各區ノ切出時期ヲ異ニシ50本宛ニ結束シ消毒シタル後各浸水日數ニ應シ之ヲ流水中ニ浸漬シ各區ヲ同時ニ植付タリ

成績

累年平均成績表（自明治四十二年度 至大正六年度 8箇年）

試驗別	枯損步合	町當刈取莖數	町當蔗莖收量	可製糖率	町當可製糖量
	%	本	斤	%	斤
無浸水	11.69	76,209	125,199	13.725	17,177
半日浸水	7.72	80,175	124,980	13.705	17,140
一日浸水	8.42	79,631	125,305	14.054	17,567
二日浸水	10.33	78,431	127,670	13.896	17,644
四日浸水	9.95	80,261	130,451	13.653	17,623
六日浸水	10.97	77,191	124,980	13.843	17,355
八日浸水	18.18	71,719	118,172	13.632	16,202
十日浸水	10.58	79,222	122,592	13.640	16,841
十二日浸水	9.60	76,342	124,796	13.779	16,999
十四日浸水	12.01	76,286	122,715	13.829	16,792

累年平均成績表（自明治四十二年度 至大正八年度 10箇年）

試驗別	枯損步合	町當刈取莖數	町當蔗莖收量	可製糖率	町當可製糖量
	%	本	斤	%	斤
無浸水	8.24	63,871	113,774	13.449	15,545
一日浸水	8.23	63,985	109,954	13.552	15,051
二日浸水	8.11	64,337	116,397	13.468	15,843
六日浸水	9.11	63,238	111,490	13.232	14,926
十日浸水	8.58	63,703	110,612	13.220	14,733
十四日浸水	9.43	63,550	112,446	13.352	15,119

結論　明治四十二年度ヨリ大正六年度ニ至ル間ニ於テ8箇年ニ亙リ試驗セル累年平均成績ニ依レハ町當可製糖量ハ1—6日間浸水シタルモノ最モ多シ　明治四十二年度ヨリ大正八年度ニ至ル間ニ於テ10箇年ニ亙リ試驗セル累年平均成績ニ依レハ可製糖量ハ2日浸水區最モ多シ

29　蔗苗浸水試驗(無灌漑)（自大正九年度 至大正十三年度 5箇年）

目的　植付前蔗苗ヲ浸水スルモノトセサルモノトノ利害ヲ考査スルト共ニ浸水日數ノ多少ハ蔗苗ノ發芽、甘蔗ノ生育、收量、可製糖率竝ニ可製糖量等ニ

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

如何ナル影響アルヤヲ知ラントスルモノニシテ植付後全ク灌漑ヲ行ハスシテ試驗セリ

方法　本試驗ハ大正九年度ニ著手シ大正十三年度ニ至ル迄5箇年間ニ亙リ無浸水、二日浸水、十四日浸水、二十一日浸水ノ4區ヲ設ケ36 POJヲ用ヒ1區ノ供試地積3—15歩、供試組數6—15組ヲ以テ施行セルモノニシテ同一圃場ニ於テ生產セル梢頭部四節苗ヲ用ヒ各區ノ切出時期ヲ異ニシ約50本宛ニ結束シ消毒シタル後各浸水日數ニ應シ之ヲ流水中ニ浸漬シ各區共同時ニ植付ケ植付後全ク灌漑及補植ヲ行ハスシテ施行セリ

成　績

試驗別	枯損步合	町當刈取莖數	町當蔗莖收量	可製糖率	町當可製糖量
	%	本	斤	%	斤
無浸水	24.26	74,629	101,070	13.813	14,000
二日浸水	20.85	77,866	105,164	13.668	14,367
十四日浸水	33.70	66,395	91,709	13.624	12,711
二十一日浸水	36.92	64,425	87,865	13.800	12,187

結論　大正九年度ヨリ大正十三年度ニ至ル5箇年ニ亙リ浸水セサルモノト二日、十四日及二十一日間浸水セル蔗苗ヲ植付ケ其後灌漑ヲ行フコトナクシテ試驗セル累年平均成績ニ依レハ二日浸水ハ枯損步合最モ少クシテ刈取莖數、蔗莖收量竝ニ可製糖量最モ多ク無浸水之ニ次キ十日浸水、十四日浸水ノ順ヲ追ヒ成績次第ニ不良トナレリ

30　蔗苗乾燥試驗　(自明治四十二年度 至大正八年度 10箇年)

目的　植付前蔗苗ヲ日光ニ曝シ乾燥スルモノトセサルモノトノ利害ヲ考査スルト共ニ乾燥日數ノ多少ハ蔗苗ノ發芽、甘蔗ノ生育、收量、可製糖率竝ニ可製糖量等ニ如何ナル影響アルヤヲ知ラントスルニアリ

方法　本試驗ハ明治四十二年度ニ著手シ大正八年度ニ至ル迄10箇年間(大正二年度ハ中止)ニ亙リ無乾燥、一日乾燥、三日乾燥、五日乾燥、七日乾燥、十日乾燥ノ6區ヲ設ケ「ローズバンブー」及36 POJ外4品種ヲ用ヒ1區ノ供試地積15步乃至1畝、供試組數2—12組ヲ以テ施行セルモノニシテ蔗苗ハ總テ同一圃場ニ於テ成熟セル蔗莖ノ梢頭部ヨリ大正八年度ハ四節苗其他ハ孰レモ三節苗ヲ採リ各區ノ切出時期ヲ異ニシ總テ50本宛ヲ結束シ消毒シタル後之ヲ各乾燥日

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

數ニ應シ露天ニ放置シ乾燥セシメ同時ニ植付ケ其後適宜灌漑ヲ行ヒ試驗セリ

成　績

試驗別	枯損步合	町當刈取莖數	町當蔗莖收量	可製糖率	町當可製糖量
無乾燥	% 8.14	本 64,660	斤 116,032	% 13.238	斤 15,396
一日乾燥	8.13	64,539	115,710	13.695	16,017
三日乾燥	8.00	65,579	117,815	13.059	15,391
五日乾燥	7.18	65,256	116,924	13.484	15,849
七日乾燥	10.51	65,089	109,922	13.517	14,914
十日乾燥	10.89	64,614	112,279	13.024	14,729

結論　明治四十二年度ヨリ大正八年度ニ至ル間ニ於テ10箇年ニ亙リ試驗セル成績ニヨレハ可製糖量ハ一日乾燥最モ多ク七日及十日乾燥區ハ5日以內乾燥セルモノニ比シ可製糖量少シ

31　蔗苗乾燥試驗(無灌漑)　(自大正九年度 至大正十三年度 5箇年)

目的　植付前蔗苗ヲ日光ニ曝シ乾燥スルモノトセサルモノトノ利害ヲ考査スルト共ニ乾燥日數ノ多少ハ蔗苗ノ發芽、甘蔗ノ生育、收量、可製糖率竝ニ可糖量等ニ如何ナル影響アルヤヲ知ラントスルニアリ

方法　本試驗ハ大正九年度ニ著手シ大正十三年度ニ至ル迄5箇年間ニ亙リ無乾燥、十日乾燥、二十日乾燥ノ3區ヲ設ケ36 POJ ヲ用ヒ1區ノ供試地積3—15步、供試組數8—15組ヲ以テ施行セルモノニシテ蔗苗ハ梢頭部四節苗ヲ用ヒ各區ノ切出時期ヲ異ニシ約50本ヲ結束シ消毒シタル後各乾燥日數ニ應シテ露天ニ放置シ乾燥セシメ同時ニ植付ケ其後全ク灌漑及補植ヲ行ハスシテ試驗セリ

成　績

試驗別	枯損步合	町當刈取莖數	町當蔗莖收量	可製糖率	町當可製糖量
無乾燥	% 23.24	本 79,378	斤 114,666	% 13.825	斤 15,788
十日乾燥	53.72	50,965	75,959	13.455	10,205
二十日乾燥	67.75	36,426	53,997	13.308	7,173

結論　大正九年度ヨリ大正十三年度ニ至ル5箇年ニ亙リ無乾燥、十日乾燥二十日乾燥ノ3區ヲ設ケ試驗セル累年平均成績ニ依レハ無乾燥ハ十日乾燥

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

ニ比シ十日乾燥ハ二十日乾燥ニ比シ孰レモ枯損歩合少クシテ刈取莖數、蔗莖收量、可製糖率並ニ可製糖量多ク成績佳良ナリ

(32) 蔗苗年齡試驗 (自明治四十一年度 至明治四十四年度 4箇年)

目的 採苗スル蔗莖ノ生育期間ノ長短卽チ蔗苗年齡ノ多少ハ甘蔗ノ生育收量並ニ可製糖量等ニ如何ナル影響アルヤヲ知ラントスルニアリ

方法 本試驗ハ明治四十一年度ニ著手シ明治四十四年度ニ至ル迄4箇年間ニ亙リ「ローズバンブー」ヲ用ヒ1區ノ供試地積1畝、供試組數1—4組ヲ以テ施行セルモノニシテ各年度共植付時期ヲ異ニセル苗圃ヨリ同一時期ニ蔗苗ヲ切出植付試驗セリ

成績

明治四十一年度成績

試驗別	月齡	枯損歩合	町當刈取莖數	町當蔗莖收量	可製糖率	町當可製糖量
		%	本	斤	%	斤
明治三十九年七月植	19箇月	3.60	63,040	179,200	10.910	19,551
八月植	18箇月	0.90	61,760	160,930	14.640	23,565
九月植	17箇月	1.80	54,080	118,720	10.850	12,881
十月植	16箇月	7.21	56,480	130,240	14.530	18,924
十一月植	15箇月	9.01	54,400	130,880	14.320	18,742
十二月植	14箇月	0	51,200	99,680	14.000	13,955
明治四十年一月植	15箇月	6.31	54,400	126,880	13.540	17,180
二月植	14箇月	0	51,040	117,760	13.990	16,475
三月植	13箇月	0	57,600	116,160	13.890	16,135
四月植	12箇月	0	50,240	97,920	14.510	14,208
五月植	11箇月	0	61,600	159,360	13.840	22,055
六月植	10箇月	0	51,200	142,720	13.760	19,638

明治四十二年度成績

試驗別	月齡	枯損歩合	町當刈取莖數	町當蔗莖收量	可製糖率	町當可製糖量
		%	本	斤	%	斤
明治四十年七月植	19箇月	18.23	52,900	172,900	13.323	23,205
八月植	18箇月	17.78	55,100	169,600	13.187	22,379
九月植	17箇月	12.41	53,600	173,533	13.032	22,619
十月植	16箇月	15.56	53,033	178,800	13.877	22,991
十一月植	15箇月	15.37	53,200	176,267	12.739	22,476
十二月植	14箇月	10.00	54,200	183,033	12.739	23,348
明治四十一年一月植	15箇月	10.37	53,767	167,333	12.419	20,774
二月植	14箇月	27.22	52,833	164,967	13.152	21,721
三月植	13箇月	18.52	53,433	170,667	12.195	20,833
四月植	12箇月	11.48	54,700	169,337	13.131	22,234
五月植	11箇月	18.89	54,433	169,167	12.680	21,402
六月植	10箇月	13.70	53,967	161,463	13.040	21,031

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

明治四十三年度成績

試驗別	月齡	枯損歩合	町當刈取莖數	町當蔗莖收量	可製糖率	町當可製糖量
		%	本	斤	%	斤
八月植	19箇月	6.85	46,333	121,000	12.990	15,697
九月植	18箇月	2.78	47,267	132,700	12.920	17,139
二月植	13箇月	3.89	46,267	127,500	12.590	16,112
三月植	12箇月	2.41	47,067	129,533	12.860	16,675
六月植	9箇月	6.85	47,967	128,166	12.760	16,366
七月植	8箇月	3.33	46,933	127,662	13.030	16,658

明治四十四年度成績

試驗別	月齡	枯損歩合	町當刈取莖數	町當蔗莖收量	可製糖率	町當可製糖量
		%	本	斤	%	斤
五月植	20箇月	65.56	31,200	43,000	13.654	5,871
六月植	19箇月	40.97	30,100	44,400	13.818	6,160
十二月植	13箇月	11.25	34,350	48,650	14.074	6,839
一月植	12箇月	29.17	38,400	39,550	13.946	5,566
五月植	8箇月	21.67	32,700	45,600	14.312	6,526
六月植	7箇月	19.58	34,600	45,950	14.286	6,619

平均成績

年度	月齡	枯損歩合	町當刈取莖數	町當蔗莖收量	可製糖率	町當可製糖量
		%	本	斤	%	斤
明治四十一年度	17—19箇月	2.10	59,627	152,960	12.133	18,666
	14—16箇月	0.54	54,027	120,267	14.283	17,207
明治四十一年度	13—15箇月	2.10	54,347	120,267	13.807	16,597
	10—12箇月	0	54,347	133,333	14.037	18,633
明治四十二年度	17—19箇月	16.14	53,837	172,344	13.181	22,734
	14—16箇月	13.64	53,478	179,367	13.118	22,938
明治四十二年度	13—15箇月	18.70	53,344	167,656	12.589	21,110
	10—12箇月	14.69	54,367	166,666	12.950	21,556
明治四十三年度	13—19箇月	4.51	46,622	127,067	12.833	16,316
	8—12箇月	4.20	47,322	128,454	12.883	16,566
明治四十四年度	13—20箇月	39.26	31,823	45,350	13.848	6,290
	7—12箇月	23.47	35,233	43,700	14.181	6,237

結論　明治四十一年度ヨリ明治四十四年度ニ至ル4箇年ニ亙リ月齡少キ若キ苗ト月齡多キ古キ苗ニ就テ試驗セル平均成績ニヨレハ前表ニ示スカ如ク若キ苗ハ古キ苗ニ比シ枯損歩合少ク概シテ可製糖率及可製糖量多クシテ

成績優良ナリ

(33) 早植用苗圃ノ植付對切出季節試驗 (自大正十五年度至昭和二年度 2箇年)

目的 早植用苗圃ヲ經營スルニ當リ其植付及切出時期ノ早晩カ蔗苗ノ産額竝ニ品質ニ如何ナル影響アルヤヲ試驗シ併セテ其蔗苗ヲ植付ケ優劣ヲ比較セントスルニアリ 尚參考ノタメ苗圃刈取跡地ノ株出ヲ行ヒ其生育收量竝ニ品質ニ就テ試驗セントス

方法 本試驗ハ大正十五年度ニ著手シ現在繼續試驗シツツアルモノニシテF 4及2725 POJノ2品種ヲ用ヒ大正十五度ニ於テハ1區ノ地積$\frac{2.5}{1,000}$「ヘクタール」ノモノ3組ヲ設ケ十二月乃至三月ノ各中旬ニ植付ケ八月乃至十一月ノ各中旬ニ刈取リ試驗シ昭和二年度ヨリハ1區ノ供試地積$\frac{2}{1,000}$「ヘクタール」ノモノ3組ヲ設ケ十月乃至翌年二月ノ各中旬ニ植付ケ七月乃至十月ノ各中旬ニ刈取リ試驗セリ

成　績

大正十五年度成績

F　4

試驗別	八月收穫		九月收穫		十月收穫		十一月收穫	
	一株當	ヘクタール當	一株當	ヘクタール當	一株當	ヘクタール當	一株當	ヘクタール當
	本	本	本	本	本	本	本	本
十二月植	11.26	224,000	17.49	349,733	11.73	320,000	10.71	212,800
一月植	10.30	204,667	16.60	332,000	12.87	254,000	11.83	233,600
二月植	10.37	207,333	17.51	350,267	12.51	245,333	11.72	234,533
三月植	7.63	152,667	14.47	283,600	10.24	202,000	10.00	196,000

2725 POJ

試驗別	八月收穫		九月收穫		十月收穫		十一月收穫	
	一株當	ヘクタール當	一株當	ヘクタール當	一株當	ヘクタール當	一株當	ヘクタール當
	本	本	本	本	本	本	本	本
十二月植	11.10	186,000	9.39	187,867	8.68	160,667	8.21	159,733
一月植	5.25	91,333	7.59	148,800	8.58	169,333	8.29	161,467
二月植	4.27	80,800	9.35	157,067	9.01	176,667	7.36	142,267
三月植	1.56	27,200	5.10	89,067	6.62	130,667	7.90	153,867

昭和二年度成績

F 4

試驗別	七月收穫			八月收穫			九月收穫			十月收穫		
	一本當	一株當	ヘクタール當	一本當	一株當	ヘクタール當	一本當	一株當	ヘクタール當	一本當	一株當	ヘクタール當
	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本
十月植	0.90	6.25	124,000	0.55	2.92	59,333	0.91	3.24	64,833	1.48	6.51	130,167
十一月植	0.81	5.33	104,833	1.02	5.12	102,500	1.11	5.37	107,333	1.45	6.70	134,000
十二月植	0.69	4.03	78,500	1.00	4.91	97,500	1.55	6.88	137,500	1.76	8.92	176,833
一月植	0.64	2.97	59,333	1.18	6.47	128,333	1.49	6.93	130,167	2.01	8.93	178,167
二月植	0.65	3.03	59,000	1.24	5.97	119,500	1.71	8.11	160,667	2.09	9.88	197,500

2725 POJ

試驗別	七月收穫			八月收穫			九月收穫			十月收穫		
	一本當	一株當	ヘクタール當	一本當	一株當	ヘクタール當	一本當	一株當	ヘクタール當	一本當	一株當	ヘクタール當
	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本	本
十月植	2.22	9.90	198,000	0.88	3.49	65,637	1.42	4.64	89,000	1.79	6.73	134,667
十一月植	1.33	5.58	111,637	0.93	3.58	70,500	0.86	4.78	91,667	1.57	6.74	133,667
十二月植	1.17	4.52	88,833	1.35	4.90	95,500	1.63	6.89	135,500	2.46	8.36	167,167
一月植	0.79	2.47	46,176	1.87	6.79	118,833	2.02	7.18	142,500	2.60	9.72	189,500
二月植	0.81	2.40	46,000	1.31	4.44	87,333	2.33	9.52	187,167	2.57	9.99	197,733

結論 大正十五年度及昭和二年度ノ2箇年ニ亙リF 4及2725 POJノ2品種ヲ用ヒ試驗シタル成績ニヨレハ大正十五年度F 4ノ成績ハ八月、九月及十月迄ノ各收穫月ハ十二月植ノ採苗本數最モ多ク二月植及一月植ハ大差ナクシテ之ニ次キ十一月收穫ニ至リテハ二月植及一月植最モ多ク十二月植之ニ次キ各收穫月ヲ通シ三月植ハ採苗本數最モ少シ 2725 POJノ成績ハ八月及九月收穫ハ十二月植ノ採苗本數最モ多ク二月植、一月植ハ之ニ次キ十月收穫ハ二月植、一月植多ク十二月植之ニ次キ十一月收穫ハ一月植、十二月植多ク三月植之ニ次キ各月ヲ通シ三月植ハ概シテ其採苗本數最モ少シ 昭和二年度ニ於ケル七月收穫ハ七月十六日ニ暴風雨ノ襲來ニヨリ其被害ヲ蒙リ早植ノモノ程採苗本數多キモ八月以後ノ收穫ハ概シテ早植ノモノ程其本數少シ

(34) 苗蔗繁殖法試驗（自大正十年度 至大正十三年度 4箇年）

目的 優良品種又ハ貴重ナル蔗苗等ヲ特ニ速ニ繁殖スル特殊ノ蔗苗繁殖法ニ就キ繁殖ノ程度及各種繁殖方法ノ得失ヲ考査セントス

方法 本試驗ハ大正十年度及大正十一年度ノ2箇年間第一法乃至第四法ノ4種ノ繁殖方法ヲ設ケF 19ヲ用ヒ試驗セルモノニシテ其繁殖方法ヲ示セハ次ノ如シ

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

第一法　全莖採年2回繁殖

普通ノ時期ニ植付タル蔗苗ヲ植付後6箇月内外ニシテ之ヲ刈直シ其時刈直シタル蔗莖ハ出來得ル限リ苗トシテ繁殖シ刈直シタル株ヨリハ更ニ株出ヲ行ヒ五、六箇月ヲ經テ更ニ全莖採トシテ採苗ス

第二法　側芽一節繁殖

充分ニ成育セル甘蔗ノ梢頭部ヨリ1本ノ苗ヲ採リ殘莖ハ其儘トシ次ノ數個節關ノ芽子適當ニ伸長スルヲ待チテ其1節宛ヲ切取リテ苗トシ斯クシテ其方法ヲ繰返シテ漸次下部ニ至ル

第三法　床伏一節繁殖

蔗苗ヲ床伏トシ芽子ノ適當ニ伸長セル頃1節宛切離シテ植付ク

第四法　分芽繁殖

植付タル蔗苗ヨリ發芽シ其稍伸長シ分蘖ヲ始メ根元ニ數節ヲ生シタル頃長大ナル分蘖莖ヨリ順次1本宛切取リ葉ヲ切リテ植付ケ斯シテ植付タルモノ更ニ分蘖ヲ生スレハ再ヒ同樣ノ方法ヲ繰リ返ス

上記ノ4法ノ内第二法ハ成熟セル甘蔗ノ全莖10本ヲ資料トシ夫ヨリ採苗繁殖セルモノニシテ他ノ3法ハ孰レモ梢頭部四節苗10本ヲ植付ケ夫ヨリ繁殖セルモノナリ

供試地積

年度＼方法	第一法	第二法	第三法	第四法
大正十年度	1畝18歩	1畝9歩	9歩	8畝24歩
大正十一年度	2畝9歩	1畝22歩	12歩	1段歩

成績

累年平均成績表（自大正十年度至大正十一年度2箇年間）

試驗別	枯損歩合	刈取株數	刈取莖數		採苗本數				倍數
			一株	總計	淘汰莖數	健全莖數	一本當	一株當	
	%	株	本	本	本	本	本	本	倍
第一法	1.58	187	4.5	841	278	3,299	3.9	17.6	347
第二法	3.25	134	6.1	811	393	5,048	6.2	37.7	505
第三法	0	35	5.3	185	120	1,211	5.5	34.6	121
第四法	14.58	793	2.9	2,271	516	5,003	2.2	6.3	535

農業部農業試驗所 TAIWAN AGRICULTURAL RESEARCH INSTITUTE 1895

繁殖法ヲ異ニセル蔗苗ノ比較試驗累年平均成績 (自大正十二年度 至大正十三年度 2箇年間)

試驗別	枯損步合	ヘクタール當刈取莖數	ヘクタール當蔗莖收量	可製糖率	ヘクタール當可製糖量
	%	本	斤	%	斤
第一法	10.77	52,746	117,929	14.075	16,596
第二法	23.36	47,361	97,048	13.948	13,565
第三法	22.32	45,459	100,422	13.959	14,075
第四法	14.42	47,556	101,383	13.907	14,108

結論　全莖採年2回繁殖、側芽一節繁殖、床伏一節繁殖、分芽繁殖ノ4法ニ就キ大正十年及十一年度ハ繁殖率、大正十二年度及十三年度ハ其生產力ニ就テ試驗セル成績ニ依レハ繁殖率ハ分芽繁殖最モ多ケレトモ面積及手數ヲ要シ且危險ナリ　之ニ次キ側芽一節繁殖ハ繁殖率高ケレトモ蔗苗ノ生產力比較的少ク床伏一節繁殖ハ繁殖率最モ低キ缺點アリ　全莖採年2回繁殖ハ繁殖率多カラサレトモ蔗苗ノ生產力高クシテ成績佳良ナリ

四　耕種ニ關スル試驗研究

(1)　整地法試驗 (自明治四十二年度 至大正十三年度 10箇年)

目的　本試驗ハ「レノーツ」式ノ重ナル4種ノ整地法ト洋犁式竝ニ本島在來ノ整地法トノ優劣ヲ比較試驗セントス

方法　本試驗ハ明治四十二年度ニ著手シ大正十三年度(大正元年度ヨリ同六年度迄ヲ缺ク)ニ至ル10箇年間ニ亙リテ臺灣式、洋犁式、「ケブルック」式、「ゴンベン」式、「チョーマル」式、「モジョパングン」式ノ6區ヲ設ケ「ローズバンブー」外16品種ヲ用ヒ1區ノ地積ヲ15步乃至1畝トシ各區6—22組ヲ作リ施行セリ　各整地法ニ就キ其概要ヲ記セハ次ノ如シ

臺灣式　區劃ノ關係上犁ノ代リニ鍬ヲ以テ3寸ノ深サニ耕鋤シ畦立ヲ行ハス斜植法ニヨリ植付ヲ行ヘリ

洋犁式　臺灣式ト同樣ニ區劃ノ關係上畜力ヲ以テ耕鋤スルコトヲ得ス便宜鍬ヲ以テ5寸ノ深サニ耕起スルコト2回ニシテ「プランテーションプラウ」ニテ畦立セル程度ニ鍬ヲ以テ畦立ヲ行フ

「ケブルック」式，底軟ト同時ニ1畦9—18箇所ノ植穴ヲ作リ基肥後1穴毎